

「一歩前進！」

社協VCのための 自己点検 ガイドブック

市町社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター機能強化指標

ひょうごボランティアプラザ



はじめに

発行にあたって～なぜこの時期にガイドブックを出したのか～

市町社協ボランティア・市民活動センター（以下「社協VC」）は、地域のボランティア活動推進の中核的な役割を担ってきました。ひょうごボランティアプラザではその強化方策として、平成17年に「市町域でのボランティア活動の推進に向けて」という報告書をまとめました。

しかし、その後の状況変化を受けて、この報告書に基づいて今後どのように考えていかなければならないかという必要性から、「ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会」を設置し、委員会やワーキングを重ねて、このガイドブックが完成しました。

社協VCに求められる役割や期待は、今後さらに大きくなっていくものと考えられます。しかし、近年の行政の財政悪化の影響などから、社協においても職員が減少したり、兼務という形でボランティアコーディネーターという職名がなくなったり、ボランティアセンターという組織自体がないという現状が出てきているなかで、どうやって動いていくのかと悩みを抱えているところは多いと思います。

従来から社協VCのための優れた指針や報告書は数多く出ています。そこには、理想の社協VCの姿が描かれているものや、目指すべき目標を設定しているものが少なくありません。

しかし、この冊子にはそういった社協VCの理想の姿や、こうあるべきという目標は描いていません。この冊子を読む側の方自身で考えてください。本文でも詳しく述べますが、地域のニーズ、活動分野の多様化や環境変化から地域における社協VCに求められる役割は様々で、統一したものを示すことは現実的とはいえなくなってきています。この冊子はそれぞれで考えていただくために作成したガイドブックです。社協VCの機能をエンパワメントすることを目的としています。ご存知のようにエンパワメントは、相手に代わって問題や課題を解決するのではなく、当事者自身で解決してもらうことが基本です。


本冊子は2部で構成されています。第1部では、このガイドブックの使い方と社協VCの使命と役割についてのそれぞれの地域において社協VCがどうあるべきかの解説ですが、第2部に取り組む時にも振り返りができるような内容を盛り込んでいます。

第2部の自己点検は付録のCDに収めているエクセルシートを使って取り組んでください。単に読むだけや、用意しているチェックリストをつけるだけでは終わらないようにしています。県社協の「市町社協地域福祉推進計画」でお馴染みのPDCAサイクルを使った手法をより具体的にわかりやすく取り組めるようにもしています。手間のかかる冊子に感じる面もあるかもしれませんが、これに取り組むことによってあなたの社協VCが地域における使命や役割を組織内で共有し、必要な協働相手と手を組み、今持っている力を最大限に発揮できることを切に願っています。

平成22年3月

ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会
委員長 成田 直志

目 次

| | | |
|---|------|---|
|  | はじめに | 1 |
|---|------|---|

第1部 基本指針・解説編

第1章 このガイドブックの使い方

1. 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営の基本ガイドラインとして

- ①ボランティア・市民活動センターの本質を改めて考えてみましょう ————— 6
- ②時代の変化に振り回されず、本質を捉えたボランティア・市民活動センターであるために — 6
- ③基本は押さえて、本質的なことは見失わないために ————— 7

2. 環境変化と地域特性を分析し、社協VCの戦略を立てるためのツールとして

- ①地域固有のニーズと環境変化を分析し、社協VCとしての戦略を立てる道筋を明らかにする ————— 7
- 【事例1】**地域の福祉資源としての施設のあり方を目指し…
～福祉施設ボランティアコーディネート指針づくりを通じた身近なCWの増強と充実～(三木市社協) ——— 8

3. 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターが住民や関係者により一層深い関係性を築いていくために

- ①社協にボランティア市民活動センターがあることを住民に広くアナウンスしてPRする ————— 9
- 【委員コラム①(豊岡市社協)】**住民への社協VCのPRについて ————— 9
- ②協働関係にあるところへも ————— 9
- 【事例2】**社協をPRするための工夫もアイデア次第～地元高校生が社協紹介DVDを作成～(洲本市社協) ——— 10

第2章 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターの使命と役割

1. ボランティア活動を取り巻く現状と課題

- ①ボランティア活動の広がりとは多様化 ————— 11

2. 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターのミッション

- ①「市町域でのボランティア活動推進に向けて」より ————— 12
- ②社協VCの目標の本質を考えましょう ————— 13
- ③社協VCの役割変化と重視すべき機能は ————— 13

3. 社協におけるボランティア・市民活動センターの位置づけ

- ①活動者だけでなく住民の視点を持っているのが社協VC ————— 14
- ②社協VCの固有性・独自性とは ————— 14
- ③市民活動を支援する中間支援組織の増加 ————— 15
- ④日常生活圏域、地域再生への関心の高まり ————— 15

| | |
|---|----|
| 【委員コラム②(芦屋市社協)】NPOとの協働について | 15 |
| 【事例3】社協ボランティアセンターと市民団体連絡協議会の連携と役割分担(加古川市社協) | 16 |
| ⑤地方分権と市町合併による影響 | 17 |
| 【事例4】住民による地区VC研究会(宝塚市社協) | 18 |

第2部 自己点検

| | |
|---------|----|
| 使い方について | 19 |
|---------|----|

ステップ1：目標確認

| | |
|----------------------|----|
| ①現在の目標を確認してみましょう | 20 |
| ②現在の目標はどこまで到達していますか | 20 |
| ③社協VCだけで目標達成は可能でしょうか | 20 |

| | |
|------------|----|
| ステップ2：自己点検 | 22 |
|------------|----|

ステップ3：課題抽出と目標再設定

| | |
|--|----|
| ①強みと弱みから考える | 24 |
| ②社協VCが向き合うべき住民は(社協VCの強みを発揮できることは何か) | 24 |
| 【事例5】地域の様々な課題やニーズを把握して地域福祉推進計画を策定(養父市社協) | 25 |
| ③ボランティア育成について | 26 |
| ④これまで地域を支えてきたボランティアと一緒に考える | 26 |
| 【事例6】市町合併に伴うボランティア連絡体のあり方について(多可町社協) | 27 |
| ⑤支援を必要としているところはありませんか | 28 |
| ⑥活動拠点について | 28 |
| ⑦社協VCの活動分野拡大に向けた工夫 | 28 |
| ⑧地域性にどう対応していくか | 29 |
| 【ワンポイント】 | 30 |
| 【事例7】地域にボランティアセンターがあることをわかりやすくするための取り組み(上郡町社協) | 32 |
| 【委員コラム③(丹波市社協)】ボランティア連絡体との関係について | 32 |

ステップ4：振り返り(アクションプランを取り組む前に)

| | |
|----------------|----|
| ①連携と協働 | 34 |
| ②エコマップを作成しましょう | 34 |

ステップ5：短期目標(アクションプラン)の作成

| | |
|---------------------------------|----|
| ①PDCAサイクル | 36 |
| ②組織への説明、外部へのアナウンス効果としても考えてみましょう | 36 |

ステップ5まで取り組んだら

| | |
|------------------|----|
| *PR資料を確認してみましょう! | 38 |
|------------------|----|

ステップ6：短期目標の点検・評価

| | |
|--------------|----|
| ①繰り返し使うことが大切 | 40 |
|--------------|----|

| | |
|-------------------------------------|----|
| 【最後に】阪神淡路大震災から15年「震災時に現地入りしたボランティア」 | 42 |
|-------------------------------------|----|

付録CDの内容

自己点検シート(吹き出し説明付)

| | |
|---------|----|
| 使い方について | 44 |
| PR資料 | 45 |
| ステップ1 | 46 |
| ステップ2 | 47 |
| ステップ3 | 48 |
| ステップ4 | 49 |
| ステップ5 | 50 |
| ステップ6 | 51 |

目標到達度シート(吹き出し説明付)

| | |
|-------------------------------------|----|
| 現在の目標到達度使い方について | 52 |
| 1. 現在の目標と到達度 | |
| ① 地域福祉推進計画 | |
| ② ボランティア・市民活動センターの目標 | |
| ③ ①と②をふまえた社協VCの目標 | |
| ④ 目標の到達度 | |
| 2. 目標に対する取り組み状況 | |
| * 目標に対して取り組んでいること | |
| 事例・コラム検索 | 55 |
| ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会設置要綱 | 56 |
| ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会検討経過 | 57 |
| ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会 委員・事務局名簿 | 58 |
| 試作版モニター協力市町社協 | 58 |

市町社会福祉協議会 ボランティア 市民活動センター

機 能 強 化 指 標

ひ　　よ　　う　　ご
ボ　　ラ　　ン　　タ　　リ　　ー
プ　　　　　ラ　　　　　ラ　　　　　ザ

第1部 基本指針・解説編

第1章 このガイドブックの使い方

1. 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営の基本ガイドラインとして

このガイドブックは、社協VCが地域性や時代の環境変化などを踏まえて、それぞれの社協VCで独自に戦略を立てていくための基本ガイドラインとして活用していただくことを目的として作成しました。

私たち社協は、地域福祉の推進に向けて「住民参加・住民主体」を基本として様々な活動を展開しています。地域での生活全般を捉えた「生活課題」を住民自らが発見し、共有し、解決する力を高め、住民が主体となった地域づくり、まちづくりを支援していくために、この冊子が一助となり、さらに「一歩前進」していただくことを願っています。

① ボランティア・市民活動センターの本質を改めて考えてみましょう

ここ近年、行政が設置する市民活動センターや中間支援を行うNPO法人など、ボランティア活動を支援するところが増えてきています。また、生活課題の多様化などを理由に活動分野が広がってきており、これまで社協VCと関わりの深かった福祉分野の占めるウェイトは全国的にみると相対的に低くなってきています（*福祉分野以外での活動が増加してきたということであって、福祉活動団体が減少しているということではありません[P. 11参照]）。

このような状況のなかで、ボランティア・市民活動センターが設置されている意味を組織として改めて考えていただき、社協ならではのボランティア・市民活動センターのあり方を示すことによって、地域へ社協VCをアピールしていくことが大切です。

② 時代の変化に振り回されず、本質を捉えたボランティア・市民活動センターであるために

家族構成の変化、少子高齢化、経済不況、地方分権化の影響、そして社会保障制度の分野でも介護保険制度等に市場原理が導入されているなど、この10年間で私たちを取り巻く社会構造環境は著しく変わってきました。この環境変化の流れは社協組織に対しても、当然大きな影響を与えています。現実的に、避けることのできない大きな問題にも直面しているはずです。

それぞれの地域でおかれている現状を認識したうえで、社協VCとしてできることを考えて将来のビジョンを設定し、戦略を立てて取り組んでいく必要性をこのハンドブックで問いかけています。大切なのは、それぞれの社協VCの状況に応じた対策づくりです。

③ 基本は押さえて、本質的なことを見失わないために

ここ近年の環境変化の影響を受け、社協VCの機能整理や、事業の見直しなどをせざるを得ない状況に直面している社協は少なくないでしょう。

しかし、社協として本当に大事なもので切り捨てて、ボランティア・市民活動センターの本質まで失ってしまうことにならないよう、社協VCとしての基本的な機能は押さえておくことです。

2. 環境変化と地域特性を分析し、社協VCの戦略を立てるためのツールとして

① 地域固有のニーズと環境変化を分析し、社協VCとしての戦略を立てる道筋を明らかにする

住民が地域で生活していくうえで抱える課題は様々です。都市部や郡部、中山間部など地域によっても違います。このことから一口に社協VCのための指標と言っても、これまで多くのところで出されてきた指標のように画一的な基準を設定して、全ての市町社協VCに求めることは、現実的であるとは言えません。

このガイドブックを活用して、それぞれの市町社協において社協VCとしての役割と方向性をそれぞれの地域の実情に合わせて考えていただき、社協VCとしての戦略を立てる上での一助として活用いただければ幸いです。

【事例 1】

三木市社会福祉協議会 ボランティア活動プラザみき

地域の福祉資源としての施設のあり方を目指し…
～福祉施設ボランティアコーディネート指針づくりを通じた身近なCWの増強と充実～

介護保険事業の充実は三木市福祉公社、地域福祉の推進は三木市社会福祉協議会とそれぞれの役割を担ってきましたが、身近な窓口の一元化、地域での継続的・包括的なケアシステムづくりが求められている現状を捉え、2008年（平成20年）10月1日に三木市福祉公社と統合し、新たに介護（看護）福祉サービス事業を展開することとなりました。今まで培ってきた互いの専門性の連携を図りながら、制度では対応しにくいニーズに対するボランティア活動者の力の調整、柔軟できめ細やかな市民参画による在宅福祉サービスの拡充、新たな地域活動の創造など、地域の状況にあった地域課題解決にむけた新たなシステムづくりを社協と地域が協働で構想することが重要であると考えます。

そこで三木市社協では、中学校区毎に一施設と整備された広範囲にわたる相談支援機能の充実にむけて、福祉施設ボランティアコーディネート指針づくりにむけてボランティア活動プラザみきと介護保険事業、障害者総合支援センター事業を担う在宅福祉サービス課の職員が課を跨いで連絡調整や意見交換を図るラウンドテーブル会議（R会議）を設置。それぞれの現状を明らかにしながら福祉施設ボランティアコーディネートマニュアルづくりやそれを用いた研修の企画に取り組み、社協職員として兼ね備えなければならないコミュニティワーカーとしての意識づけと役割の認識、身近な地域福祉の推進を支援する専門職の充実を目指しています。

3. 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターが住民や関係者により一層深い関係性を築いていくために

① 社協にボランティア・市民活動センターがあることを住民に広くアナウンスしてPRする

ボランティア活動を実際に行っている活動者にとっては、社協VCは身近な支援機関として認知されているでしょう。一方、生活課題を抱える住民に「社協VC」は認知されているでしょうか。相談に訪れる方は、「社協に」ということで窓口を訪ねてくる方々がほとんどではないでしょうか。住民のなかには社協の中にボランティア・市民活動センターがあることを知らずに相談しに来ている人も少なくないでしょう。

実際、住民の相談に対応するのはボランティアコーディネーターや、地域福祉課（係）の職員、または両方を兼務している職員であったり、介護事業担当職員であったりもするでしょう。社協にボランティア・市民活動センターがあって、住民が抱えるそれぞれの課題解決のためにボランティアのコーディネートを行っていることを広く地域住民に知ってもらうことが重要です。

委員コラム ①（豊岡市社会福祉協議会）

「住民への社協VCのPRについて」

ボランティアコーディネーター自身が社協VCの職員であるという意識がどこまであるだろうか？住民と接する時に「〇〇VCの～（名前）です」と言わずに「社協の～です」と名乗ってはいなかなかVCの認知度は浸透しないでしょう。ボランティアコーディネーター自身の意識の持ち方も大切ではないでしょうか？

住民にVCを身近に感じてもらうには、地域の状況に応じて入り込んでいく働きが重要となります。地域を知らなければ、人材を含めた社会資源が分からず、ボランティアコーディネートや情報提供もままならないでしょう。地域の課題、特徴を把握し、コーディネートすること、関係機関へ繋げること等を通じてVCは地域に根ざした存在になって行くのではないのでしょうか？事務所で待っているばかりでは地域の生活課題はなかなか解決に至らないでしょう。

またVCだけで活動するのではなく、地域福祉部・介護事業部、またNPO法人・行政等と連携することでプラスアルファが生まれ、住民にとって生活課題を解決する有効な情報提供等ができるでしょう。対住民だけでなく、関係機関と日頃からの関係づくりを進めていくことも欠かすことができません。

② 協働関係にあるところへも

社協VCにとって最も重要な協働相手は、ボランティア活動の重要性を認識しているところといえるでしょう。そういった協働相手を見つけ、パートナーシップを呼びかけるためにも、このガイドブックを活用していただければと思います。

【事例 2】

洲本市社会福祉協議会

「社協をPRするための工夫もアイデア次第」～地元高校生が社協紹介DVDを作成～

洲本市社会福祉協議会では、地元住民への社協PRを目的としたDVDを高校生とともに作成しました。

きっかけは、学校との連携において、小学校とは福祉学習を通じて関係ができていたが、中学校・高校とはどのように連携していくのかという課題からでした。

また、地域福祉推進計画において『社協PRの推進』という目標があり、「映像でPRするのが効果的ではないか」と、既存のビデオ等を参考に検討しました。その中で、制作費や分かりやすい内容にするといったいくつかの課題を検討していく上で、「高校生の目線で分かりやすいものを作成してはどうか」ということで地元高校によびかけて、放送部と一緒に制作していくこととなりました。

DVDの内容は「洲本市社協キャラクター」（これも地域福祉推進計画において『キャラクターの開発』を掲げていた）にちなんだ架空の人物を仕立て、生まれてから定年・老後までの一生のうちに社協事業がどれだけ深く関わっているのかというストーリーにしたものです。

シナリオは社協職員で作成しましたが、DVDで使用する映像などは、高校生が給食サービスやミニデイサービスなどを訪れ、撮影しました。

完成したDVDは今後、社協のPRのために地域住民座談会やサロンにおいて披露していく予定です。

アイデアをしぼることで、お金をかけずに社協を知っていただくPR材料が作れた事例といえるのではないのでしょうか。

もちろん、地域福祉推進計画の目標達成への取り組みであったことは言うまでもありません。



*高校生が取材のためにミニデイサービスを訪れて説明しているところ。



*出来上がったDVD。ラベルは市社協のイメージキャラクター「みつくマン」

第2章 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターの使命と役割

1. ボランティア活動を取り巻く現状と課題

① ボランティア活動の広がり と 多様化

県内では10年前と比べて社協VCが把握するボランティア数は約1.1倍、ボランティア団体数は約1.5倍増加してきました。しかし、平成16年度をピークに、把握するボランティア数は減少傾向にあります(図1)。また、活動分野は約7割が福祉を占めていますが、生活課題の多様化に対応して活動分野に広がりが出てきています。

この理由のひとつとしては、NPO法の成立により17の活動分野が定義づけされたことが考えられます。活動分野は「福祉の増進」がやはり多いものの、まちづくりなど生活課題に関するものも少なくありません。福祉分野だけではニーズの多様化や環境変化に対応できるでしょうか(図2)。

また、ここ3年間をみると社協が支援してきたボランティアグループがメンバーの高齢化などを理由に解散・活動休止する傾向にあるとともに、給食サービスグループ等の事業化が考えられます。

今後、ボランティア活動を推進していくためには、若者や勤労者、団塊の世代等の幅広い層に向けた活動支援や、NPO法人など独自に立ち上がったグループの運営支援がこれからの課題でしょう。

図1

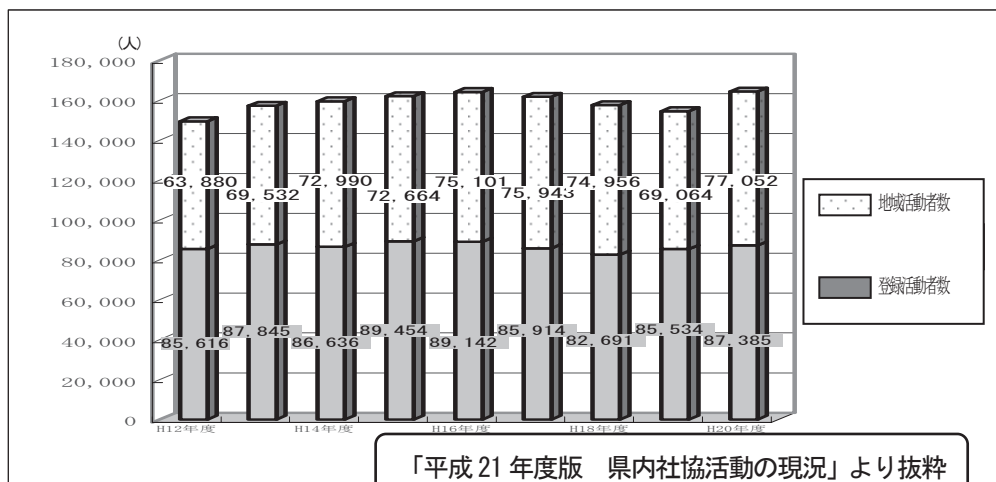
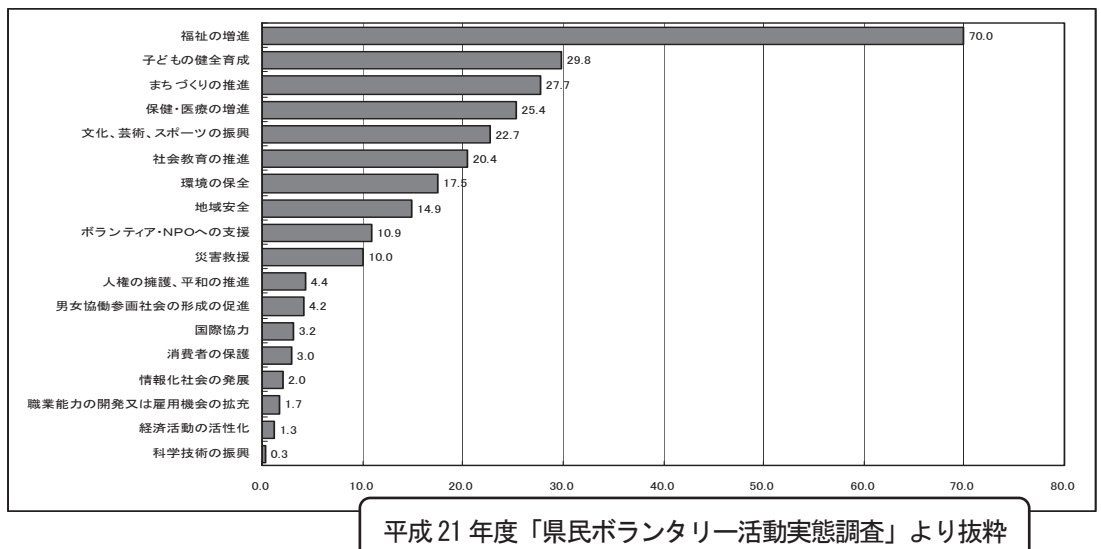


図2



2. 社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターのミッション

ひょうごボランティアプラザでは平成17年3月、「市町域でのボランティア活動推進に向けて」という冊子を発行しました。

この冊子では、社協VCの基本的な理念を整理していますので、ここでその一部を述べさせていただきます。ここで掲げた基本理念は社協の本質にもかかわることであり、時代の流れにおいても変わらないはずです。

①「市町域でのボランティア活動推進に向けて」より

● 社協VCの使命は

「一人ひとりが住み慣れた地域で、いつまでも安心していきいきとくらせる福祉コミュニティづくりに向けて、当事者、住民、市民の主体性をボランティア活動を通じて引き出したり高めたりすること」、またそれを通して「住民・市民の自治力が高まること」を目指しています。

つまり、単に「ボランティアを増やす」、「ボランティア活動をしたい人と求める人をつなぐ」のではなく、「住民・市民参加の基盤を広げながら主体性・自発性を高めること」、また「福祉コミュニティづくりに向けてその力を結集させること」が社協VCの使命です。

● 3つのエンパワメントを社協VCの立場から支援する

- (1) 地域福祉を進める人づくり
 - ① 当事者のエンパワメントを支援
 - ② 住民・市民のエンパワメントを支援
- (2) 地域福祉を進める組織・拠点・しくみづくり
 - ③ 地域のエンパワメントを支援

① 当事者のエンパワメントを支援

～当事者の想いを受け止め、問題解決力を高め
自立生活の実現を支えるはたらき～

② 住民・市民のエンパワメントを支援

～住民・市民の「想い」に火をつけ、活動や育ち
をサポートするはたらき～

③ 地域のエンパワメントを支援

(福祉コミュニティ形成)

～地域に共感を広げ、地域で支える仕組みをつくるはたらき～

② 社協VCの目標の本質を考えましょう

ほとんどの市町社協では地域福祉推進計画において、ボランティア活動・ボランティア活動団体との協働による地域づくりを目標や行動計画として定めているかと思います。

社協は永年に渡りボランティア活動を積極的に支援してきました。今後もその方向性は変わらないのですが、具体的な方策や達成目標についてビジョンを持って計画に組み込んでおく必要があるでしょう。

この指標に取り組んでいくと、それぞれの市町社協のビジョンが明らかになっていきます。見えてきたビジョンをぜひ地域福祉推進計画の策定等に活用してください。

③ 社協VCの役割変化と重視すべき機能は

地域のニーズは、時代の流れとともに変化していくものです。その変化を常に把握するアンテナを持ったうえで、社協VCとしてどこに重点を置くか考えてみる、すなわち「時代の潮目（しおめ）を読む」ことが大切です。

3. 社協におけるボランティア・市民活動センターの位置づけ

① 活動者だけでなく住民の視点を持っているのが社協VC

兵庫県では全国に先駆けて昭和 45 年頃からボランティア・市民活動センターの設置を促進し、県内の各市町社協に設置してきました。多くのところでは、「ボランティア・市民活動センター」や「ボランティアセンター」の看板を掲げ、専任の職員を配置して事業を展開していたり、地域福祉課（係）にボランティアコーディネーターを配置するなどしてボランティア・市民活動センターとしての業務にあたっているのではないのでしょうか。なかには、社協本体から独立した場所に機関として社協VCを設置しているところもあるでしょう。

一体、どのような形態をとるのが理想的なボランティア活動支援なのでしょう。当然、人員や財源面による制限を抜きにしては考えられません。それぞれの地域特性や社協の組織状況などによって考えられる要素は多様です。

しかし、ここで大事なことは、社協の事情から考えるのではなく、住民の立場から考えることではないでしょうか。生活課題を抱えて「社協に相談してみよう」と訪れる住民は多いはず。社協として話を聞いていくうえで、ボランティアの派遣が必要であったり、地域福祉活動につないだり、介護保険制度のことであったり、行政等他機関を紹介したりしていると思います。住民の立場を第一に考える視点と体制を社協全体で共有していなければなりません。

② 社協VCの固有性・独自性とは

社協が単にボランティアニーズを調整しているだけだと認識されないようにするには、社協VCの固有性・独自性を組織全体で明確にしておくことです。こういう時代だからこそ、社協がボランティア・市民活動センターを持つ意味を改めて考えることが必要でしょう。

例えば、社協VCはボランティア活動の支援機関ですので当然、活動者からの視点をもって業務をしているでしょう。しかしながら社協という組織は地域に根ざした団体でもあり、当事者の視点を忘れてはいけません。さらに社協VCにはボランティアを養成する機能・能力も他の支援機関と比べて優れていると思いますし、福祉分野では長い活動の実績を有しています。

このような社協として地域における他の支援機関にない特徴、すなわち固有性・独自性を出すことはとても大切です。

③ 市民活動を支援する中間支援組織の増加

市町が設置する市民活動センターも現在、県域で15ヶ所（H21.5.末・県地域協働課調べ）に整備されています。またNPO法人等による中間支援組織の設置も進んでいます。これら社協外の中間支援組織との連携・協働のあり方を探ることも大切です。

④ 日常生活圏域、地域再生への関心の高まり

これまで社協VCが得意としてきたことのひとつに地域福祉を軸とした住民活動の支援があります。近年のボランティア活動に対する期待をうまく取り込んで地域の活性化につなごうと取り組んでいるところも少なくないでしょう。

一方、市町による市民活動センターの設置や参画と協働意識の高まりの中、安上がりな担い手としてボランティア活動を「下請け化」する風潮には警戒が必要でしょう。住民主体の地域づくり推進に向けた行政との協働や、自治会や小地域福祉推進組織等の地域組織とNPOなどテーマ型活動の連携・協働を促進することが、地域づくりに向けた重要なテーマです。

委員コラム②（芦屋市社会福祉協議会）

「NPOとの協働について」

芦屋市では、平成19年10月に、公設民営による「あしや市民活動センター」が開設され、NPO法人が受託し、運営しています。

一方、社協ボランティア活動センターとしては、これまでのボランティアグループへの支援から、NPOなどとの連携、協働がこれからのテーマとして考えられています。

また、市内にあるさまざまな活動団体は、個人的なつながりはあるものの組織的なつながりはなく、同じような事業でも連携して実施していることは少ない状況です。

そんな中、芦屋市内でさまざまな団体が“つながる”場づくりのため、あしや市民活動センターが中心となり、NPO、行政、社協による準備会をスタートさせました。話し合いを重ねた中で出てきたことは、中間支援機能を持つ団体間のネットワーク、いわゆる“ネットワークのネットワーク”ができれば、多くの団体がつながることができ、各団体間の情報の受発信などの問題を解決する糸口になるのではと考えています。また名称を「あしやDeネット」と名付けました。

社協ボラセンとしては、ネットワークの一員としての役割を見つけ、存在感を示していくことが重要になります。

【事例 3】

加古川市社会福祉協議会 加古川市ボランティアセンター

「社協ボランティアセンターと市民団体連絡協議会の連携と役割分担」

加古川市社会福祉協議会から比較的近いところの加古川駅南まちづくりセンター内に、「かこがわ市民団体連絡協議会」という市民活動団体があります。どちらもボランティアや市民活動を支援する機関ですが、社協ボランティアセンターは福祉分野を中心に、まちづくりなどより広い活動分野の支援はかこがわ市民団体連絡協議会と役割分担しています。

活動者支援の窓口が2つある市町は多くありますが、加古川市では両者が普段から顔の見える関係づくりに努め、事業での協働や相互に役員会への出席、定期的な事務局会議の開催など、お互いが連携をとっています。

どのような分野であるにしても活動希望者が社協の窓口へ相談に来たら、いったん話を受け止めたうえでよく聞いて、市民活動センターのほうが向いているとなればそちらにつないだりしています。反対に市民活動センターに福祉分野の活動希望者があれば社協につないでいます。

当然どちらかでなければならないということではなく、両方に登録している団体もできています。活動者の立場で支援体制をとっていることは言うまでもありません。

さらに団体への支援ばかりでなく、個人で活動したいという方のためのセミナーや研修も協働で開催し、個人活動者への支援もお互いに力を合わせて取り組んでいます。また、両者の登録団体の交流や情報交換の機会も協議を重ねながら毎年工夫しており、ボランティアメッセを協働で開催しています。

社協ボランティアセンターと市民活動センターは、今後もこの両者がいかに協働していけば「住みよいまちづくり」のための地域活動をより効果的に支援していくことができるかを現在も探求しています。



*写真はボランティアメッセ2009（平成21年10月29日～11月1日）

⑤ 地方分権と市町合併による影響

昨今の市町合併の影響により、兵庫県内の市町数は約半数に減少し（16年度 88 市町 → 18年度 41 市町）、それに伴って、行政機関と同じく社協についても支所（旧町社協）の統廃合や規模の縮小がすすめられるなど、各社協VCの体制や事業実施方法が変わってきています。兵庫県の「市町ボランティア活動支援事業」（*）における合併特例も平成 20 年度をもって廃止され、市町社協VCの財政的な体制づくりが大きな課題になっています。

しかし、財政的な理由から社協VCを一律に統廃合するのではなく、これを機会に広域化すべき機能と地域単位におくべき機能の分担について、また職員の役割について再考し、市民による地区ボランティア・市民活動センター運営構想などを具体的に検討する時期にきているといえます。

* 市町ボランティア活動支援事業

兵庫県において全県的なボランティア支援体制の確立を図るため、20 年前に創設された補助金制度（H20 年度からは県社協を通じての助成に変更）。

【事例 4】

宝塚市社会福祉協議会 宝塚ボランティア活動センター

「住民による地区VC研究会」

平成19年度の事業報告で、宝塚市ではボランティア活動センター運営委員会において「地域で個別支援に対応できる人材・グループの育成」が課題であるという地域福祉活動からの視点での意見が出ました。

ボランティア活動センターでは、この意見を踏まえて、平成20年度に「向う三軒みんなボランティア・地域活動基礎講座」というタイトル企画で開催しました。

そして、講座受講者のアンケートに、「地区VCの研究会を考えていますが、興味はありますか？」という設問欄を設けました。そして、関心をもってくれた受講者10人で地区VCの研究会がスタートしました。

研究会では、既に地区VCがある他市社協への見学や、先駆的に取り組んでいる社協の職員を呼んで話をさせていただいたりしました。

宝塚市社協は市内に7つの地区センターを設置し、まちづくり協議会単位で地域福祉推進に先駆的に取り組んでいる社協でもあります。組織からは「地区VCは本当に必要か？」という意見もありましたが、ボランティア活動センターでは、住民による地区VC勉強会の報告を取りまとめて、地区VCの必要性を組織として考えてもらえるよう投げかけています。

ここで重要なことは、ボランティア活動センターだけの考えではなく、住民自ら学んだことを社協組織に考えてもらおうとしていることです。

また、既に設置されている他市の地区VCの模倣ではなく、宝塚市社協としてどのような地区VCのあり方が望ましいのか、個別支援に対応できる地域単位をどうするのか、既にある小地域福祉活動とどのように役割関係を担っていくのかなどは、当然、組織として考えていかなければなりません。

宝塚市社協は平成21年度、新規に「安全で安心なたのしいまちづくり事業」を展開していきます。その中で地区VCの位置づけを検討していくことになっています。



*第1回の地区VC研究会はいきいきサロンで行われました。



*研究会の総括では、参加メンバーから活発な意見が出されました。

第 2 部 自己点検

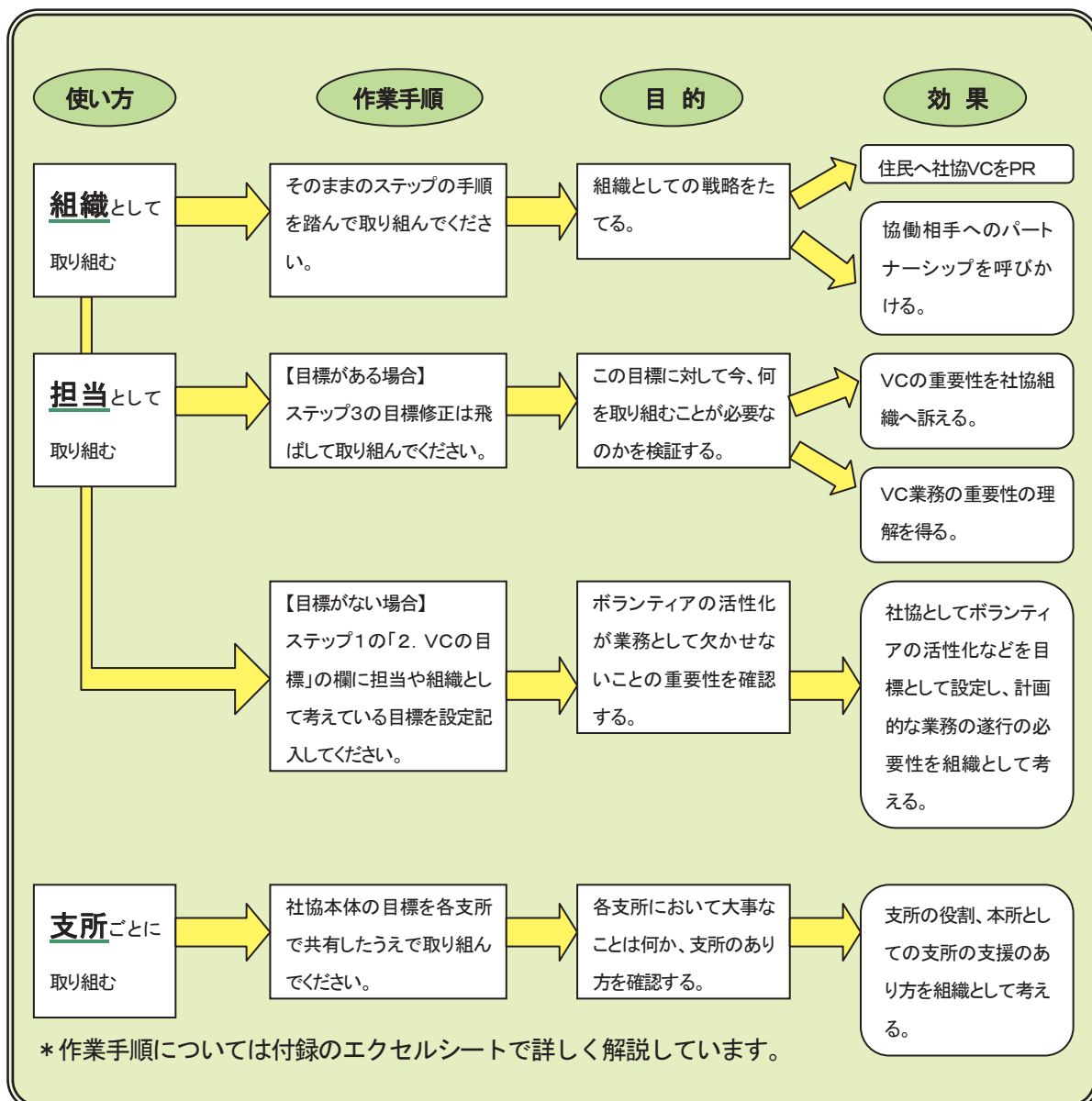
使い方について

この自己点検は社協VCの機能強化を目的としていますので、まずは組織として取り組んでいただくことを考えてください。

組織として取り組んだうえで、社協VCを住民にアピールすることや、行政や民間団体との協働先にも理解を求めよう活用していただきたいと考えています。

しかし、組織としてなかなか取り組む余裕がない場合もあると思います。また、社協VCの目標を設定していない、地域福祉推進計画にもボランティアのことを掲げていないというところもあるかもしれません。この自己点検は社協の組織としてボランティア・市民活動センターの重要性を理解してもらうことにも使えるようにしていますので、担当として社協VC（または社協）の目標を定め、今取り組むことは何かを考え、組織の目標に高めていく機会となることを期待しています。

また、合併市町においては各支所で取り組んでいただくことで、それぞれの支所において何が重要なのかを社協組織として考えていただくことにも活用してください。



ステップ1：目標確認

① 現在の目標を確認してみましょう

第2章でも述べたように、各市町社協の地域福祉推進計画等の策定においてボランティア活動の推進の重要性や具体的な目標や行動計画を定めている社協も多いでしょう。さらに社協VCとしての目標を定めているところもあるでしょう。

しかし、繰り返しになりますが、ビジョンを持って計画や目標設定に組み込んでおかないとその目標達成は当然困難となります。

ビジョンを持って支援していくには、時代環境の変化の影響などから自らの社協・社協VCに今どの程度の体力があるのか、自己点検（ステップ2）を試みるのが重要です。マラソンに例えてみると、42kmのレースを走る前に自己の体力がどの程度なのか、また現在の体調はどうなのかを測定してから走るかどうかを決めるでしょう。場合によっては42kmの体力はないからハーフマラソンに目標を変更することもあるはずです。「自己点検」についてはステップ2で触れますが、その前にまず自分自身の体力について確認しておきましょう。

目標到達度は付録のCDを使って確認してみましょう！

② 現在の目標はどこまで到達していますか

目標は達成可能なものでなければならないことは言うまでもありません。それでは、今設定している目標はどの程度まで到達しているのでしょうか。自己点検を行ってみて到達度が低い場合は目標設定が高過ぎるか、ニーズや顧客等と目標設定時から想定していたものが大きく変化しているということが考えられます。

また、目標には短期と中長期が必要です。中長期目標（ビジョン）とは、地域においてあるべき社協VCの姿とも言えます。短期目標は中長期ビジョンを意識して設定しなければなりません。短期目標を繰り返して到達した社協VCの姿が中長期ビジョンの実現です。

このガイドブックは、「PDCA（Plan, Do, Check, Action）」サイクル手法を具体的に使って中長期ビジョンの実現を目指せるような手引き書として活用していただけるように作成しています。

③ 社協VCだけで目標達成は可能でしょうか

ここ数年の時代環境の変化の影響で、財政的、人的資源、物的資源など組織が「縮む」傾向にあるのは社協だけではないと思います。地域のなかには行政や民間団体などに社協VCと同様の組織使命を持っているところがあるはずです。そういった機関・団体と連携することや手を組むことは目標達成に近づく足がかりとなるでしょう。

後のステップにも関係してきますが、ここで現在連携体制がとれている機関・団体を掲げてください。

第1部も改めて読み直してみましょう

【参考】 第1章 1-①（P6）・1-②（P6）

第2章 2-①（P12）・2-②③（P13）

第2章 3-④（P15）

ステップ1：目標確認

1. 地域福祉推進計画

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

2. ボランティア・市民活動センターの目標（平成 年までの目標）

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

3. 現在連携しているところは

| | |
|-----------------------------|--|
| (1) 密に連携をとっているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (2) 定期的な会議等で情報交換などがとれているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (3) 現在連携はとれていないが必要と思われるところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

ステップ2：自己点検

自己点検することで、現在の自組織の力が見えてきます。そして、現在立案している目標を達成するためにいくつかの課題が浮かび上がってくるはずです。（人間で言えば、脚力強化や筋力トレーニング、心肺機能強化など、個々の弱点に応じた課題解決を行います。）その課題を解決するためにはどうしたらよいのか、現在もっている力で可能なのか、冷静に判断しなければなりません。場合によっては目標を見直すことを考えるのも必要になるでしょう。（次のステップ3以降で考えていただきます。）

このガイドブックはチェックするだけで終わる冊子にならないよう工夫しました。

ここで行う自己点検は、大きく分けて外部環境と内部環境に分けて点検していただくようにしています。また、社協VCとしてここまでは押さえてほしいというミニマムの基準を提示しています。今は達成できなくても、後のステップで設定する短期目標に組み込むなどして取り組んでいただければと思います。

右ページの8以降の項目については、社協自身の努力によっても達成できない項目（市町補助金の問題、事務局スペースの問題など）もあるので、できていなくても気にする必要はありません。できている項目があればその社協VCの強みとして活用できますし、できていなくても自分の社協VCに必要と思われる項目であれば、それを持っているところと協働することによって補完されるということも後のステップで考えてみてください。

メモ *チェックリストに取り組む際のワークシート等に使ってください。

ステップ2：自己点検

* **入力欄** に「十分にできている=3」「おおむねできている=2」「あまりできていない=1」「できていない=0」を入力してください。

| | 項 目 | 入力欄 |
|--|---|-----|
| 外部環境 | 1. 調査・情報収集 | |
| | ①ボランティアに限らず、地域課題の対応に関する社会資源、情報を把握していますか。 | |
| | ②窓口からの情報だけでなく、住民アンケートや当事者ヒアリングなど多面的に地域のニーズを調査していますか。 | |
| | ③地域住民はどの分野のボランティア活動に関心を持っているか把握していますか。 | |
| | 2. ボランティア育成・支援 | |
| | ①参加者の多寡にとらわれず、活動者や当事者の視点やニーズをとらえて、活動に結びつく養成講座を開設していますか。 | |
| | ②ボランティアを派遣した場合は活動状況などのフォローはできていますか。 | |
| | ③小地域福祉活動、当事者活動、NPOなどさまざまな「市民活動者」への支援を考えていますか。 | |
| | 3. 行政との連携 | |
| | ①市町の福祉担当課と連携・協働はできていますか。 | |
| | ②市町の市民活動担当・まちづくり担当課などボランティア活動やNPO法関係を所管する部所との連携・協働はできていますか。 | |
| | ③学校教育関係機関との連携・協働はできていますか。 | |
| | 4. 地域における連携 | |
| | ①訪問に重点をおいて協力機関と顔の見える関係づくりに努めていますか。 | |
| ②NPOセンターが設置されているところにあつては、そこの役割分担。ないところにあつてはNPO(法人)に対応する体制はとっていますか。 | | |
| ③相談を受けて解決が困難な場合のことを考えた地域との連携体制をとっていますか。 | | |
| 内部環境 | 5. 活動拠点 | |
| | ①看板の設置など社協にボランティア・市民活動センターがあることを住民に周知していますか。 | |
| | ②活動者が気軽に立ち寄れるスペースを設置していますか。 | |
| | ③窓口等にボランティアの情報がここでわかるという掲示をしていますか。 | |
| | 6. 相談機能 | |
| | ①活動者や当事者が来やすい窓口の雰囲気づくりに努めていますか。 | |
| | ②住民からの相談はいったん受けとめる(すぐに断らない)を心がけていますか。 | |
| | ③コーディネーターがうまくいかなかった場合の振り返りはできていますか。 | |
| | 7. 組織体制 | |
| | ①なぜ社協がボランティア活動を推進するのか、その目的を組織として明確にしていますか。 | |
| | ②VCOだけでなく、社協職員全体でボランティア活動推進の目的、役割りの共通認識を図っていますか。 | |
| ③コミュニティワーカーや支部の職員などが定期的に集まって、業務についての情報交換会をするようなミーティング等が開催できていますか。 | | |
| | 8. 職員体制 | |
| | ①ボランティアコーディネーターを専任で配置していますか。 | |
| | ②VCOのスキルアップをはかるためや、コーディネーターに差が生じないよう業務についての内部研修機会、担当が築いた関係者とのつながり(ネットワーク)の共有を図っていますか。 | |
| | ③中間管理職やチームリーダー向けの研修を実施するなど、スーパービジョンに向けた取り組みを行っていますか。 | |
| | 9. 学習支援 | |
| | ①地域住民が福祉などについて学習できる機会を提供していますか。 | |
| | ②ボランティアリーダー・アドバイザーの養成等を企画し、地域の中核となる人材が育っていますか。 | |
| | ③活動プランづくりにあつては、ボランティアたち(連絡体等も)が自分で考え、作りあげられるような自主性のあるものができていますか。 | |
| | 10. 設備 | |
| | ①ボランティアが自由に使えるスペース(部屋)がありますか。 | |
| | ②ボランティアが自由に使える資機材がありますか。 | |
| ③地区VCなど市町内に活動拠点がありますか。 | | |
| 11. 財源 | | |
| ①自治体はボランティア活動の重要性の理解をしており、人件費をはじめ社協VCが必要とする補助をしていますか。 | | |
| ②共同募金配分金事業の新規事業や先駆的な事業を企画・実施したり、民間団体の助成事業を積極的に活用していますか。 | | |
| ③ボランティア団体への独自の助成金制度がありますか。 | | |

ステップ3：課題抽出と目標再設定

自己点検でみなさんの社協VCの「強み」と「弱み」そしていくつかの課題が見えてきたと思います。

①「強み」と「弱み」から考える

強みは、地域においては社協VCとして住民や行政などにPRする材料や協働の相手方にパートナーとして働きかける要素になると思います。また、社協の組織内部でも役員等に対して社協VCの存在と必要性をアピールする資料として使えると思います。

弱みからは、地域の課題解決のためにどこを手を組むのがよいのか、今後あるべきネットワーク関係が見えてくると思います。また、弱いところも工夫次第で補うことができるでしょう。ここが弱いから力を入れて取り組んでいきたいと組織にアピールすることも必要かもしれません。

みなさんの社協VCの「強み」と「弱み」を分析した時点で現在たてている目標をもう一度見つめ直してください。

よくあると思われる課題についていくつか述べさせていただきたいと思います。目標を振り返る際の参考にしていただければと思います。

② 社協VCが向き合うべき住民は（社協VCの強みを発揮できることは何か）

普段から住民と接していると、地域のニーズが見えてくると思います。社協によっては住民アンケートや当事者からのヒアリングでニーズ調査しているところもあるでしょう。住民ニーズすなわち生活課題はやはり「福祉分野」が圧倒的に多いでしょう。行政が設置している市民活動センターなどで多いのもやはり、子育て支援などの「福祉分野」そして、「まちづくり分野」「環境分野」など生活課題に直結している分野です。

住民のニーズは何か、そして住民は社協に対して何を期待しているのか、社協VCが向き合うべき人たちは誰なのかを絞り、そこを押さえて社協VCとしてどこに力を入れるのかを考えていかなければなりません。

もちろん、引き続き従来からの福祉活動分野を中心に支援することもあるでしょうし、「子育て支援」や「精神障がい者」など最近増えてきている福祉活動分野から「地域おこし」など、まちづくり関係などの活動分野にまで社協VCが関わっていくことも増えています。

第1部も改めて読み直してみましょう

【参考】 第2章 2-① (P12)・2-② ③ (P13)

第2章 3-① ② (P14)

【事例 5】

養父市社会福祉協議会

「地域の様々な課題やニーズを把握して地域福祉推進計画を策定」

合併した市町社協にとっては、どのように新市町の第1次地域福祉推進計画をたてるかが大きな課題であったはずですが、合併したとはいえ、旧市町の地域のニーズや課題は様々です。まだ、どのように計画策定をするか模索しているところもあるでしょう。

合併していない市町においても次の計画をたてる時期になれば、いかに地域の課題やニーズを把握して社協としてどのような計画を立てるか苦慮していることと思います。

4町が合併して誕生した養父市社会福祉協議会では、合併後の第一次となる地域福祉推進計画策定に取り組むにあたり、地域のニーズや課題を把握するために住民アンケート、当事者ヒアリング、官公庁・企業訪問などを実施しました。

住民アンケートでは、一般住民1,000世帯、民生委員・児童委員、区長などから、「地域の福祉のニーズ調査」「地域でのたすけあい意識調査」「社協の事業評価」などの項目で課題を把握しました。

当事者ヒアリングでは「車いすで生活している方」「知的な障がいを持つ子どもの親」「認知症高齢者や寝たきり高齢者を介護する方」「ひとり暮らし高齢者」「子育て中の親」「精神障がい者」の方たちから当事者のニーズの把握や課題解決の過程に寄り添う支援は何なのかを直接会って話し合いました。

官公庁・企業ヒアリングでは福祉施設や医療機関も含め、社協の外部評価、社協との協働、社会貢献活動や災害への対応状況調査、行政や社協への要望を聞き取ると同時に、このヒアリングはニーズや課題の把握だけでなく、外部評価としても機能しました。

また、策定委員のメンバーには関係者だけでなく、地域の幅広い住民層から20人を委嘱しました。委員会においてはワークショップ形式をとって、これらの住民の意見を自由に出し合える雰囲気づくりで討議するとともに、上記のヒアリング調査にも委員が積極的にかかわりました。

このようにして、地域において見えてきた現状と課題を分析・検討して、同市社協が今後5年間目指す基本目標を定めて、活動計画をたてています。

地域における社協の役割は何かを考え地域福祉推進計画に取り入れた例といえるでしょう。



* 「子育て中の親」へのヒアリング
場面

③ ボランティア育成について

「ボランティア活動者が高齢化している」「若い世代のボランタリー活動者の育成に悩んでいる」「男性の活動者が集まらない」等々は、多くの社協VCが抱えている課題です。養成講座を開いても参加者が集まらないという声も聞きます。しかし、養成講座で参加者がたくさん集まってもほとんど活動に繋がらなかったということもあれば、少ない参加者でも実践に発展していった事例があったと思います。また、参加者が多く集まる活動分野の講座はボランティアを求める側の希望の多いものでしょうか。講座の企画は当然求める側の視点に立たなければならないことは言うまでもありません。

なかには、将来の担い手のことを考えて福祉学習に力を入れたほうがよいのではと考えているところもあるでしょう。福祉学習は社協の主要な事業のひとつですが、それを受けた子どもたちが将来の活動に結びつくかは時間がたたないとわかりませんし、結果が見えにくいいため組織内で説明しにくい面もあるでしょう。しかし、そろそろ福祉学習を受けた世代が「〇〇分野のボランティアをしたい」等で社協を尋ねてくる頃ではないでしょうか。そういった効果が現れてきているところは、福祉学習の重要性を目標として位置づけてもいいでしょう。しかし、ここで重要なことは従来の車いすやアイマスク体験といった狭い範囲の福祉学習にとらわれないことです。

また、住民活動を活性化するには「芸術・文化・スポーツ系」が有効な分野ということもあり、男性活動者を取り込むために写真や蕎麦打ち教室などを開催したという話を聴きました。よくあるカルチャー教室との違いを見出せずに悩まれることもあるでしょうが、それを社協VCがやるということの意義を押さえておくことです。それは、いかに集まった参加者をボランティア活動に結びつけるかなど戦略を立てたうえで講座を組むことが重要ではないでしょうか。

④ これまで地域を支えてきたボランティアと一緒に考える

社協VCの立ち上げ当初から現在に至るまで頑張っておられる活動者は多いでしょうし、ボランティア連絡体の中心メンバーとして現在も活躍されている方も少なくないでしょう。これらの方々の社協VCに対する功績は計り知れないものがあります。社協が時代の環境変化からその役割とあり方を問われ意識改革が迫られる今、ボランティア活動者と一緒に考えあう時期に来ているといえます。

一方、ボランティア連絡体の加入率低下の問題を抱えているところも少なくないでしょう。ボランティアが自主的な運営をする意味や連絡体の会合が、長年の慣習で形式的になっていないでしょうか。

加入率の低下、加入していないボランティアグループが増加してきているという現状だと思いますが、これまで地域を支えてきたボランティアの連絡体の存在は加入率の高さに関係なく社協VCにとっては重要な存在です。しかし、今まで通りのあり方とは違った形での協働の仕方が地域には必要となっています。場合によってはゼロからの再スタートをとることも必要かもしれません。そのことも一緒に考えていきましょう。

【事例 6】

多可町社会福祉協議会

「市町合併に伴うボランティア連絡会のあり方について」

平成17年に旧中町・加美町・八千代町の3町が合併して多可町が誕生すると同時に、社協も合併し、多可町社会福祉協議会が誕生しました。

社協では、多可町として地域のボランティア組織の連合体としてボランティア連絡会の必要性を抱いていました。

しかし、それぞれの旧3町の取り組みが違って、それぞれ連絡体は名称のみ・自主的に連絡体活動・連絡体は存在しないという状態でした。

合併までには、旧町単位で、それぞれのグループの親睦と他のグループの活動を知るために交流会などを開催しました。このような交流会を重ねて、連絡体設置に向けて働きかけ、全ボランティアグループ連絡会加入にこぎつけました。

次の課題は、連絡体役員選出です。自らの活動だけで手一杯で他のグループのまとめ役など余裕がないという方もいましたが、役員候補者ひとりひとりとボランティアコーディネーターとの根気強い話し合いの結果、「負担にならないように、自分の出来る範囲でみんなで協力してやっつけよう。」という同意が得られました。

そこで、各支部（旧町）グループリーダーから3名を支部の代表とし、さらに1名を多可町ボランティア連絡会の三役のひとりになる組織になりました。初代会長には、旧町から活躍していた方に引き受けていただきました。

こうして平成18年に「ボランティアが何でも話せる・自分達でつくる」多可町ボランティア連絡会が発足しました。発足当初は、打ち合わせをする度に旧町の温度差が目に見えて、すぐにぶつかったりしましたが、思いをぶつける場所が必要だったんだと改めて感じました。

さらに、平成20年に、明石市を中心とした東播磨のボランティアから役員へ交流の誘いがありました。その誘いに応じて明石市を訪れた役員（9名）が、「役員にならなかつたら、こんな所へ来ることもなかった。自分の世界が広がった。」「自分の出来る範囲で頑張ればいいという楽な気持ちになった。」と話してくれたのです。町外のボランティアとの肩の張らない交流は、当町の役員にとっては大きな刺激になりました。

今年度2回目の役員改選を控えています。町内の宝であるボランティアの活動しやすいように新役員体制の準備に心がけ、普段のボランティアの小さな力が結束し、いざという時には、町内のために大きな力となることをボランティアコーディネーターは願っております。

⑤ 支援を必要としているところはありませんか

行政においてもボランティアやNPOと協働する機会が増えてきています。社協VCと関わりなく立ち上がったボランティア団体も少なくありません。当初は熱意をもって活動をスタートしたり、他の支援を受けていた団体にも年数が経過するにつれ、活動が停滞したり、支援先がなくなったりして困っているところがあるかもしれません。そういったところの受け皿としての役割も社協VCに求められるのではないのでしょうか。

⑥ 活動拠点について

近年設置された市町立のボランティア・市民活動センターには、設備や備品において目をみはる程完備されたところがあるのは事実です。しかし、全国的に自治体の財源が厳しくなっている現在の状況では、今後、資機材が老朽化しても買い替えできない、条件の悪いところへの移転などはあっても、新たに設備が拡充されることは望めなくなってくるかもしれません。

どこの社協VCでも心がけていると思いますが、社協VCが持つべきものは、利用者が気軽に立ち寄れる雰囲気とちょっとしたスペースです。さらにボランティアさんたちが集まって話し合える部屋があれば、ボランティア・市民活動センターとしてハード面の機能は最低限確保できたといえるでしょう。

そして、前にも述べたように社協にボランティア・市民活動センターがあるということをしてPRする看板の設置は重要ですが、地域に積極的に出ることなど、社協VCを住民により知ってもらう方法は他にもいろいろとあるはずですよ。

⑦ 社協VCの活動分野拡大に向けた工夫

社協の事務局が福祉センターや保健センターの中にあって、福祉分野の来庁者が多いという社協VCもあるでしょう。社協VCの戦略として活動分野を市民活動分野に広げたいところにあっては工夫が必要かもしれません。例えば、新しいイベントを新しい対象者に向けて企画・実施するとか、時代にマッチした名称を掲げるのも一つの方法でしょう。

⑧ 地域性にどう対応していくか

合併した市町でのボランティア活動の展開について、当初は旧町時代に育ててきたボランティア活動者とともに、旧町時代に積み重ねてきたやり方で、支所（旧町社協エリア）においても変わりなく展開する予定のことだったと思います。しかし、自治体の財政難・人員削減は社協組織にも大きな影響を与えており、支所の体制が縮小、場合によっては統合も考えようかという流れのなかで、当初考えていた合併前と同様のボランティア・市民活動センター業務の展開は難しくなっているのが事実です。

また、本所においては支部間の格差のバランスをどうとるかで頭を抱えていることでしょう。それに、同じ市の中でも地域によってボランティア活動に対する考え方も違うでしょう。合併によって広い面積になった自治体においては、地域性の違いが新たな課題になっているところもあるでしょう。社協の基本活動でもある「生活課題の解決」、「地域の助け合い」も「ボランティア活動」と捉えることができます。「福祉」、「ボランティア」という言葉よりも、活動の中身が大切であることは言うまでもありません。そして、住民が活動に参加しやすくするのちょっとした工夫次第ではないでしょうか。

一方、地域性は合併市町だけの問題ではありません。合併していない市町においても地域での活動内容の差異、住民の意識の差をどうするかを長年の課題としているところも少なくありません。また、都市部でも郡部と同じ悩みを抱えていることもありますし、その逆もあるでしょう。この冊子も全県で統一した考え方は出せないという前提のもとで作成しています。

住民にとって最もよい地域の活動単位はどの範囲か、旧市町域を越えて活動しはじめた団体が出てきているかなど、地域をよく見ること、住民と積極的に接することで考えていくことが大切でしょう。

ワンポイント

*ステップ3のシートを取り組むうえで、参考にしてください

1. 足を運ぶことが成果につながる

小中学校では総合学習時間の見直し・短縮により、これまでのように授業で福祉学習の時間を取り入れる余裕がなくなってきている学校も少なくありません。あるボランティアコーディネーターは市内の小中学校を全て訪問してもいい返事はありませんでした。

福祉分野をはじめボランティア活動の人材育成には学校との連携は欠かせません。

次にこのボランティアコーディネーターは大学へ学生のボランティア活動を単位に組み入れてもらえないかと足を運んだところ、何校目かに訪れた大学からよい返事をもらうことができました。

ここで注目していただきたいのは、このボランティアコーディネーターは電話で依頼するだけでなく、全ての学校へ足を運んでいることです。

2. 地域福祉担当との連携

ボランティアコーディネーターと地域福祉担当は普段から連絡をとりあったりするなど連携しているところは多いと思います。しかし、社協VCが普段かかわっている活動者や当事者と、地域福祉担当がかかわっている住民は同じでしょうか？

地域福祉担当とスムーズな連携をとるには、お互いの顧客と直接出会うことが大切です。例えば、ボランティアコーディネーターがまちづくり協議会に足を運んで地域での活動者と顔見知りになると、地域福祉担当との共通課題はより鮮明になるのではないのでしょうか。

このこともボランティアコーディネーターが足を運ぶ成果のひとつといえるでしょう。

3. 活動団体も変化していく

活動団体のメンバーの高齢化はどこでも課題になっているとことです。まず、考えることは若い世代の育成でしょう。

ある市の活動団体もメンバーが高齢化し、これまでのような活動がほとんどできなくなっていました。

しかし、長年一緒に活動して絆の深まっているメンバーは定期的集まる機会は続けました。するとサロンのようなコミュニティを形成していったのです。当然、広く一般住民も交流できるようにすることは、ボランティアコーディネーターとは話し合っています。

4. ボランティアリーダーの育成

ひょうごボランティアプラザで開催しているボランティアコーディネーター研修は、活動者に関わる業務を対象としたプログラム立てをしているので、社協ボランティアコーディネーター以外の職種でも参考になると思います。

ある市社協は、毎年ボランティアリーダーにこの研修の受講を勧めています。市町社協には研修等の多くの情報が集まると思います。ボランティアリーダーの育成には、こういった外部の機会を与えることも考えてみてはどうでしょうか。

5. ボランティア連絡体の役員になること

ボランティア連絡体の加入率の低下と同じように、役員の引き受け手になっていただける方がなかなか見つからないことで、悩んでいる社協VCも少なくないでしょう。

誰もが本来のボランティア活動だけで忙しいのは当然で、負担になるような役職に就くことは敬遠しがちです。

でも、役員を引き受けることで、いろんな方との出会いや新たに発見する機会、自分の活動以外の見識を深めるなどのメリットもたくさんあると思います。

形式的な役割だけでなく、「役員になって良かった」と思われるような経験をさせていただく工夫を考えてみてください。

6. 市町域を超えたボランティア活動者との交流

事例でも少し触れましたが、多可町のボランティア活動者と明石市など東播磨のボランティア活動者の交流のきっかけは、災害などの有事の時は東播磨一帯の市町が被災して援助できなくなる可能性があります。このことから遠方の市町のボランティアとの普段からの交流の必要性を抱いたことがきっかけです。

また、阪神淡路大震災で被災地のボランティアと応援に駆けつけたボランティアたちの交流が現在も続いているところもあります。

災害は互いに離れた地域との結びつきのきっかけになります。もちろん、違う地域のボランティアたちの交流はいろんな意味でお互いの活動についての考え方など、よい刺激をもたらすこともあるでしょう。

7. セルフヘルプグループ

「セルフヘルプグループはボランティア活動団体に入るのか？」と上司から問われた担当者は少なくないと思います。しかし、地域で困り事を抱えている住民の課題は複雑多様で、当事者でないと共感できないことや、また近所の人には知られたくないという方も少なくありません。それに、セルフヘルプグループは、これから新たに課題を抱えてきた人たちのことを当然考えています。

また、VC運営委員会に障がい者団体などの当事者をメンバーに入れている社協もありますが、活動団体というだけでなく、当事者団体の立場としてもセルフヘルプグループからは重要な意見を求めることができるのではないのでしょうか。

【事例 7】

上郡町社会福祉協議会

「地域にボランティアセンターがあることをわかりやすくするための取り組み」

上郡町社会福祉協議会は平成18年度に現在の場所へ移転しました。移転後、VC運営委員会から「ボランティアセンターの看板は絶対に必要」と強い意見が寄せられました。

ももとは別の目的で使われていた建物であったこともあり、社協職員もここにVCがあることをPRする必要性は感じていました。そして、住民にとってわかりやすく表示するには、手書きの看板のほうが目立つのではないかと何枚も作成しました。

旧事務所で使っていた看板も掲げていますが、手書き看板のほうが明らかに目立っています。

また、看板以外でも事務所を明るく訪ねやすい雰囲気にするための工夫を今でも社協職員だけでなく、活動者たちをはじめ住民と一緒に取り組んでいます。



*建物の入口に掲げた看板

委員コラム③ (丹波市社会福祉協議会)

「ボランティア連絡体との関係について」

ボランティア連絡体が誕生してから約20年が経過しました。

個人で活動していた、志を同じくする人同士が自主的にグループ化し、さらにそれぞれの活動をより高める目的で町、郡、市単位でのボランティア連絡体が組織されていきました。

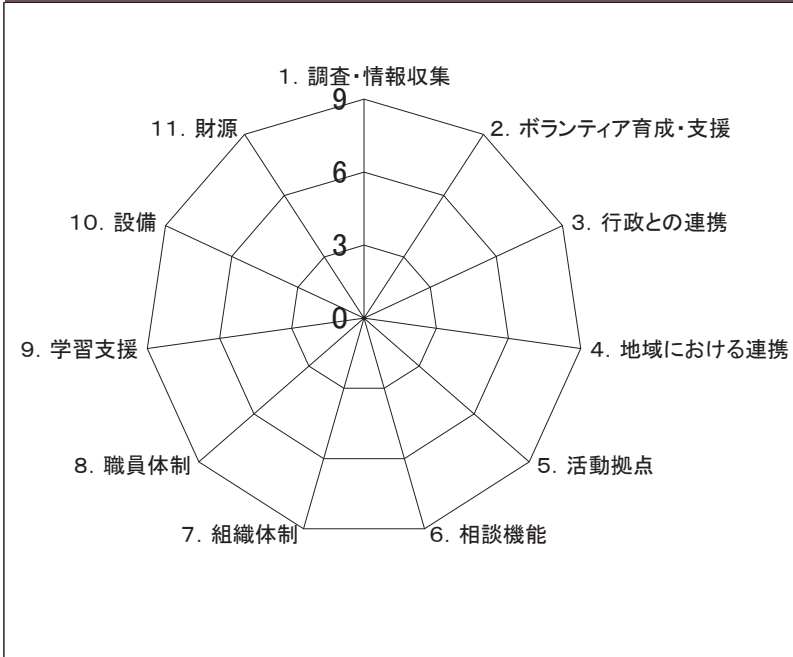
社協の行う事業はボランティアと密接な関係を築き、ボランティアは今も給食サービスなどで事業の一翼を担っています。

一方、これまでの取組みを尊重しつつ、社協とボランティア連絡体それぞれが果たす役割を明確にしていく必要があります。

これからのボランティア連絡体は、自主的な運営に向けた体制づくりと、組織内部に事務的機能、調整機能を持つことが必要となるでしょう。

社協は必要に応じた事務的・財政的支援を行いますが、ボランティア連絡体に加入しないグループや市内・市外を問わず活動するグループ、福祉系NPOも数多く設立している現状から、互いに共通認識のもと、フィフティ・フィフティの関係を築けるよう心がけたいものです。

ステップ3：課題抽出と目標再設定



<解説>

右半分(1~7)は社協VCとして押さえていただきたい項目です。

左半分はあなたの社協VCのどの部分が強いかを表しています。

・8が高いところは豊富な人材力(マンパワー)に恵まれていると言えます。

・9が高いところは自主的な住民活動が盛んと言えます。

・10が高いところは充実した設備を備えていると言えます。

・11が高いところは資金調達面でのアイデアが優れていると言えます。

* 自己点検からあなたの社協VCの強みと弱みを分析してみましょう。

| 強み | |
|----|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| 弱み | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

* もう一度目標を振り返ってみましょう。

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

* 目標を達成するにあたって課題と思われることは何でしょうか？

・上の目標ごとに考えて記入してください

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

* 現れた課題から目標達成が困難な場合は修正する必要があります。修正が必要なものは下記の目標(再掲)を修正してください。

* 目標修正は組織で取り組む場合に考えて下さい。

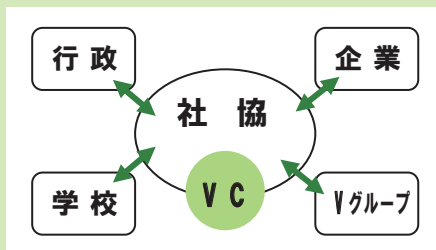
| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

ステップ4： 振り返り(アクションプランに取り組む前に)

① 連携と協働

社協の独自性を述べましたが、他の支援機関や行政にもそれぞれ社協にない独自性あるいは強み・弱みがあります。地域の課題解決を目指すためにお互いの強みと弱みを補いあうことを考えると必然的に連携のあり方が見えてくると思います。社協VCと連携することにより地域の住民サービスが向上すると相手から思ってもらえることが、よい協働関係にあるといえるのではないのでしょうか。

② エコマップを作成してみましょう



現在の関係機関との連携状況などのネットワークを図に現してみてください。

そして、必要な協働相手がわかってきたら、理想の図を書いてみて比較すると今後どのようにネットワーク体制を築いていくべきかのヒントが見えてくると思います。

社協におけるVCの位置づけは各市町社協において様々だと思えます。

社協VCは社協のアンテナショップという役目も担っていますので、上の参考図のように社協本体から一部飛び出た存在であることが必要ですが、組織としての体制が弱い場合は、社協全体として受け止める体制を取らざるをえないこともあるでしょう。

どういう形態がとれるかは、やはり住民の目線から考えることが大切です。

<現在>

<今後あるべき体制>

第1部も改めて読み直してみましょう

【参考】 第2章 3-①・② (P14)

3-④・⑤ (P15)

ステップ4：振り返り（アクションプランに取り組む前に）

目標（見直した場合はその目標）

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

目標を達成するにあたっての課題

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

あなたの社協VCの強み

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

あなたの社協VCの弱み

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

* 目標を達成するにあたり必要と思われる連携相手を「強み」と「弱み」を振り返りながら協働・連携が必要な相手

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

<参考>現在の連携状況

| | |
|-----------------------------|--|
| (1) 密に連携をとっているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (2) 定期的な会議等で情報交換などがとれているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (3) 現在連携はとれていないが必要と思われるところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

* 目標や連携相手先を見直したうえで、改めて考えてみましょう

| | |
|-------------------------|--|
| 社協VCが最も大切にしなければならない人たちは | |
| 顧客は | |
| 地域のニーズは押さえていますか？ | |
| ニーズは | |

ステップ5：短期目標(アクションプラン)の作成

さて、これまでのステップを経て、社協VCが持つ機能から地域の実情に合致する目指すべき中長期ビジョンがたてられたでしょうか。

それでは、いよいよ短期目標（アクションプラン）の作成です。

① PDCAサイクル

中長期目標のゴールは、地域における社協VCのあるべき姿と言えます。

その目標の項目ごとに今から何に取り組むべきか短期目標などの計画（Plan）を立てましょう。

計画が立ったら、実行（Do）です。

実行したら例えば1年後などの期間を決めて定期的に点検・評価（Check）してください。

そして、改善（Action）すべきところがないか、あればそれに対して次の1年間どう取り組むか再び計画（Plan）をたてます。

こうしてPDCAサイクルを繰り返して、中長期目標の実現を目指していきます。

② 組織への説明、外部へのアナウンス効果としても考えてみましょう

最初のステップで立てたように、中長期目標の実現は社協本来の目標の実現につながるものです。

このため、ここで短期目標を立てて実行することは当然、社協組織の理事・評議員や幹部職員に理解してもらえるはずです。

例えば、ステップ1から段階を踏んだ上でこのステップ5で立てた計画であれば、「社協としての目標を実現させるために、社協VCとしてこの1年はここに力を入れて取り組んでいきたい」と社協の理事・評議員や事務局長等に対して説得するプレゼンテーションが出来るでしょう。

また、住民や行政、協働関係にある人たちへもアピールする材料にもなると思います。



第1部も改めて読み直してみましょう

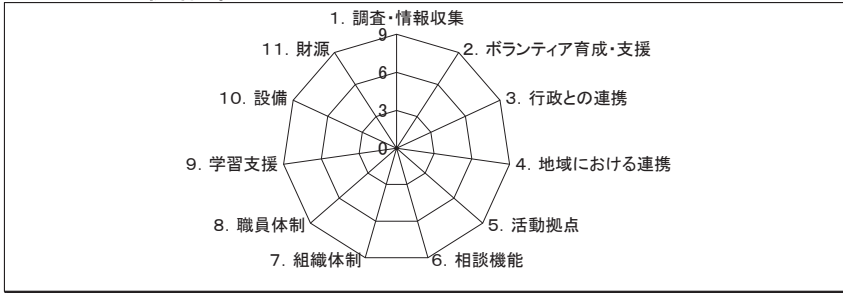
【参考】 第1章 1-①・②（P6）

1-③（P7）

2-①（P7）

ステップ5:短期目標(アクションプラン)の作成

1. 自己点検結果



| 強み | |
|----|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| 弱み | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

| 連携が必要なところ | 連携がとれているところ |
|-----------|-------------|
| ① | ① |
| ② | ② |
| ③ | ③ |

2. 短期目標(アクションプラン)の作成

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標① | |
| 課題 | |
| | 目標①に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標② | |
| 課題 | |
| | 目標②に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標③ | |
| 課題 | |
| | 目標③に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標④ | |
| 課題 | |
| | 目標④に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標⑤ | |
| 課題 | |
| | 目標⑤に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

ステップ5まで取り組んだら *PR資料を確認してみましょう!

この冊子を読みながら、付録CDのエクセルシートをステップ5まで入力したら、使い方説明の次にある「PR資料」のシートを開いてみてください。

目標に対する取り組みをはじめ、自社協の強み、地域のニーズや顧客、組むべき相手、目標に対する取り組みなどが一枚にまとめられています。

これを、組織や外部へのPR資料として活用していただきたいのです。

当然、説明を求められることと思いますが、この冊子を読みながら作成していますので、前の頁を読み直せば、説明はじゅうぶんできるはずです。当然、既に入力したステップ1～5の資料も使ってください。

また、全部の欄が埋まらない場合もあるでしょう。その場合、空欄は削除してください。このシートは他のシートに影響は与えませんので、見栄えのよいようにどンドンアレンジしてください。

| 地域福祉推進計画など | | 社協が目指すものは（目標） | |
|------------|--|---------------|--|
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |

| 社協の目標実現のために | | VCはこれを目指します | |
|-------------|--|-------------|--|
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |

| アピールします！ | | 社協VCの強みはこれです | |
|----------|--|--------------|--|
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |

| 地域のニーズ・そして社協VCの顧客は | |
|--------------------|--|
| ニーズ | |
| 顧客 | |

| パートナー | | これからはこと連携・協働します | |
|-------|--|-----------------|--|
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |

| H22年度は | | 目標達成のためにこのように取り組みます | |
|--------|--|---------------------|--|
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |
| ▪ | | | |

| わが社協VCの特色ある取り組みは | |
|------------------|--|
| ▪ | |
| ▪ | |
| ▪ | |

ステップ6：短期目標の点検・評価

① 繰り返し行うことが大切

ステップ5で短期目標を設定してから、このステップ6で点検する時期を決めてください。概ね1年後くらいが目安ですが、地域福祉推進計画の策定時期などそれぞれの社協VCの節目に点検時期を設定していただくことが大切です。

1回目のPDCAで中長期目標が達成されることは少ないと思います。

最初の点検・評価で改善すべき点が出てくるのは当然予想されます。その時は、ステップ5に戻って何がうまくいかなかったのか、次はどう取り組んだらよいのか等を考え、再び計画を立てて実行していきます。これを何回か繰り返して中長期目標の実現を目指すのです。

しかし、今後時代の波が激しく動いていくことは見逃せません。予想もしなかった大きな動きが出てきて目標や計画を大きく見直さなければならないことも予想されます。場合によってはステップ1か2に戻ってそこから見直したほうが良い場合もあるでしょう。

各社協・社協VCで臨機応変に取り組んでゆくことが肝要です。

ステップ6：短期目標の点検・評価

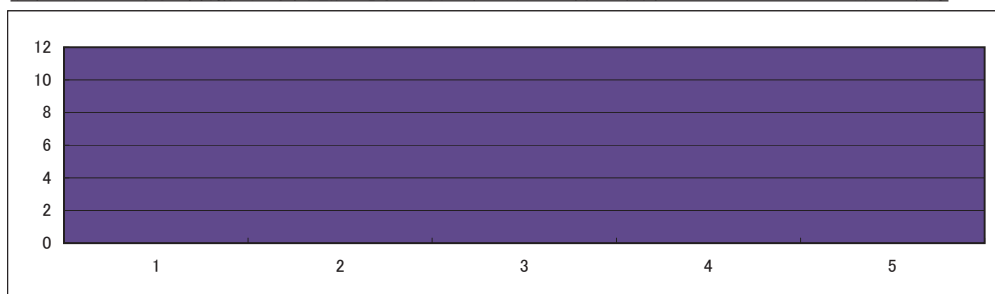
<点検時期：H 年 月 日>

* [達成=4][おおむね達成=3][半分は達成=2][少しは進んだ=1][全く進んでいない=0]を入力してください

| 項 目 | | 入力欄 |
|-----------------------|----------|-----|
| 中長期目標① | | / |
| 課題 | | |
| 目標①に対して取り組むべきこと(短期目標) | | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標② | | / |
| 課題 | | |
| 目標②に対して取り組むべきこと(短期目標) | | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標③ | | / |
| 課題 | | |
| 目標③に対して取り組むべきこと(短期目標) | | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標④ | | / |
| 課題 | | |
| 目標④に対して取り組むべきこと(短期目標) | | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標⑤ | | / |
| 課題 | | |
| 目標⑤に対して取り組むべきこと(短期目標) | | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |

短期目標の達成度

* 上のチェック欄を入力するとグラフが完成します。各中長期目標に対する短期目標が全て達成すると12点満点ですので、10点(達成率80%くらいになるよう目指しましょう(達成できなくてもまた、ステップ5に戻って取り組んでいくことがPDCAサイクルです))。



| | |
|------------|-----|
| 中長期目標①の達成率 | 0 % |
| 中長期目標②の達成率 | 0 % |
| 中長期目標③の達成率 | 0 % |
| 中長期目標④の達成率 | 0 % |
| 中長期目標⑤の達成率 | 0 % |

評価(改善すべき点は)

| | |
|---|--|
| ▪ | |
| ▪ | |
| ▪ | |
| ▪ | |
| ▪ | |

【最後に】

阪神淡路大震災から15年

「震災時に現地入りしたボランティア」

阪神・淡路大震災直後から1年間で県内外から138万人のボランティアが駆け付け、平成7年は後に「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。

とりわけ、ボランティア活動に関心が薄いと思われていた若い世代の参加が目立っています。

一方で、ボランティアの受け入れ体制の不備、コーディネーター不足などの課題も残りました。

また、震災では被災者を支援するボランティア団体やNPOが数多く生まれています。社会福祉協議会や消費生活協同組合、専門家グループ、さらに自治会や婦人会などの地域団体が活発に活動し、市民による民間助成機関も組織されました。

震災時のボランティア活動を通じて、市民社会の担い手が多様化していきましたが、これら震災で活躍されたようなボランティアやNPOには地域に足がかりを持っていない組織が少なくないという現実もあります。

近年は、災害が発生すれば災害ボランティアセンターが立ち上げられるという動きが全国各地で見られます。普段から地域の助け合いなどの地縁組織の支援と、テーマ型のNPOやボランティアを地域に足がかりをつけられるよう支援しているかで、災害等の有事の対応に大きく影響してくるはずです。



*被災地で活動するボランティア



*震災当時の長田区役所付近の状況

付録CDの内容

付録C Dの内容

使い方について

1. エクセルの使い方

- ①このエクセルファイルをコピーして使うことをお勧めします(関数処理していますので、表を変えた場合連動しなくなることがあります)。
- ②行の高さを変えるのは構いませんが、行の増減はしないでください。
- ③「1目標確認」→「2自己点検」→「3課題抽出と目標再設定」→「4振り返り」→「5短期目標の作成」→「6短期目標の点検・評価」の順に入力してください。「集計」には入力しないでください(シートには保護をかけています)。
- ④入力するのは、基本的に薄い黄色のマス内のみです。
- ⑤「チェックリスト」シートはチェック欄に数字のみ入力してください。行を挿入したりすると関数処理がおかしくなります。「ダイヤグラム」については手を加えていただいても構いません。
- ⑥各シートに説明事項として吹き出し(緑色)がありますが、プリントの際は印刷されません。

2. ハンドブックを活用する

- ①ハンドブック各ステップの解説(第2部)とこのシートは左右見開きにしていますので、ハンドブックを参照しながら作成することをお勧めします。また、第1部についても参考になるように解説しています。
- ②このハンドブックは、組織への説明資料や外部へのアナウンス効果としても使うことを目的としています。ステップ1～5まで入力すると「PR資料」が自動的に作成されます。これはあくまで見本としていますので、各自でより見栄えのよいものを工夫していただければと思います。

| 地域福祉推進計画など | 社協が目指すものは（目標） |
|------------|---------------|
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |

PR資料として使ってください

| 社協の目標実現のために | VCはこれを目標にします |
|-------------|--------------|
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |

このシートはステップ1～5まで取り組むと、各シートの要点が反映されます。住民や連携相手へのPR資料、担当が社協役員など組織へVCの重要性をアピールするために活用してください。これは他のシートには影響を与えませんので、加工することは可能です。見栄えのよいように各自で工夫してみましょう。

| アピールします！ | 社協VCの強みはこれです |
|----------|--------------|
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |

| 地域のニーズ・そして社協VCの顧客は |
|--------------------|
| ニーズ |
| 顧客 |

| パートナー | これからはここと連携・協働します |
|-------|------------------|
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |

地域のニーズや顧客の絞り方はいろいろな方法があると思います。目次の項目から参考になりそうな見出しの頁や、三木市社協(P. 8)や養父市社協(P. 25)などの事例を参考に考えてみましょう。

| H22年度は | 目標達成のためにこのように取り組みます |
|--------|---------------------|
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |

自社協VCでうまくいっていることを思い浮かべてみてください。上の項目にないことなどがあると思います。そういったことなども是非PRとして記入してください。

| わが社協VCの特色ある取り組みは |
|------------------|
| ■ |
| ■ |
| ■ |

ステップ1：目標確認

1. 地域福祉推進計画

地域福祉推進計画の基本目標でVCに関係する項目をピックアップしてください。市町合併のところなど、まだ計画が策定されていないところなどは空欄でも後のステップに取り組むことはできません（この欄はPR資料にのみ反映されます）。

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

VCとして独自に立てている目標、重点目標、推進方策などより具体的な目標を記入してください（基本目標そのままという場合は同じ内容でも結構です）。
地域福祉推進計画はおおむね5か年先まで見通して立てているところが多いと思います。ですから、ここで掲げる目標は中長期的なものとなります。

2. ボランティア・市民活動センターの目標（平成 年までの目標）

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

3. 現在連携しているところは

| | |
|-----------------------------|--|
| (1) 密に連携をとっているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (2) 定期的な会議等で情報交換などがとれているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (3) 現在連携はとれていないが必要と思われるところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

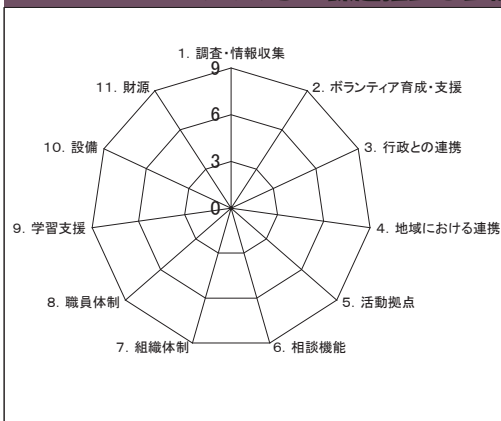
連携がとれているところ、必要なところが多い場合は、ひとつの欄に複数をわかりやすく記入してください

ステップ2：自己点検

* **入力欄** 「十分にできている=3」「おおむねできている=2」「あまりできていない=1」「できていない=0」を入力してください。

| | 項目 | 入力欄 |
|--|---|-----|
| 外部環境 | 1. 調査・情報収集 | |
| | ①ボランティアに限らず、地域課題の対応に関する社会資源、情報を把握していますか。 | |
| | ②窓口からの情報だけでなく、住民アンケートや当事者ヒアリングなど多面的に地域のニーズを調査していますか。 | |
| | ③地域住民はどの分野のボランティア活動に関心を持っているか把握していますか。 | |
| | 2. ボランティア育成・支援 | |
| | ①参加者の多寡にとらわれず、活動者や当事者の視点やニーズをとらえて、活動に結びつく養成講座を開設していますか。 | |
| | ②ボランティアを派遣した場合は活動状況などのフォローはできていますか。 | |
| | ③小地域福祉活動、当事者活動、NPOなどさまざまな「市民活動者」への支援を考えていますか。 | |
| | 3. 行政との連携 | |
| | ①市町の福祉担当課と連携・協働はできていますか。 | |
| | ②市町の市民活動担当・まちづくり担当課などボランティア活動やNPO法関係を所管する部所との連携・協働はできていますか。 | |
| | ③学校教育関係機関との連携・協働はできていますか。 | |
| | 4. 地域における連携 | |
| ①訪問に重点を置いて協力機関と顔の見える関係づくりに努めていますか。 | | |
| ②NPOセンターが設置されているところにあつては、そこの役割分担。ないところにあつてはNPO(法人)に対応する体制はとっていますか。 | | |
| ③相談を受けて解決が困難な場合のことを考えた地域との連携体制をとっていますか。 | | |
| 内部環境 | 5. 活動拠点 | |
| | ①看板の設置など社協にボランティア・市民活動センターがあることを住民に周知していますか。 | |
| | ②活動者が気軽に立ち寄れるスペースを設置していますか。 | |
| | ③窓口等にボランティアの情報がここでわかるという掲示をしていますか。 | |
| | 6. 相談機能 | |
| | ①活動者や当事者が来やすい窓口の雰囲気づくりに努めていますか。 | |
| | ②住民からの相談はいったん受けとめる(すぐに断らない)を心がけていますか。 | |
| | ③コーディネーターがうまくいかなかった場合の振り返りはできていますか。 | |
| | 7. 組織体制 | |
| | ①なぜ社協がボランティア活動を推進するのか、その目的を組織として明確にしていますか。 | |
| | ②VCOだけでなく、社協職員全体でボランティア活動推進の目的、役割りの共通認識を図っていますか。 | |
| | ③コミュニティワーカーや支部の職員などが定期的に集まって、業務についての情報交換会をするようなミーティング等が開催できていますか。 | |
| | 8. 職員体制 | |
| ①ボランティアコーディネーターを専任で配置していますか。 | | |
| ②VCOのスキルアップをはかるためや、コーディネーター力に差が生じないよう業務についての内部研修機会、担当が築いた関係者とのつながり(ネットワーク)の共有を図っていますか。 | | |
| ③中間管理職やチームリーダー向けの研修を実施するなど、スーパービジョンに向けた取り組みを行っていますか。 | | |
| 9. 学習支援 | | |
| ①地域住民が福祉などについて学習できる機会を提供していますか。 | | |
| ②ボランティアリーダー・アドバイザーの養成等を企画し、地域の中核となる人材が育っていますか。 | | |
| ③活動プランづくりにあたっては、ボランティアたち(連絡体等も)が自分で考え、作りあげられるような自主性のあるものができていますか。 | | |
| 10. 設備 | | |
| ①ボランティアが自由に使えるスペース(部屋)がありますか。 | | |
| ②ボランティアが自由に使える資機材がありますか。 | | |
| ③地区VCなど市町内に活動拠点がありますか。 | | |
| 11. 財源 | | |
| ①自治体はボランティア活動の重要性の理解をしており、人件費をはじめ社協VCが必要とする補助をしていますか。 | | |
| ②共同募金配分金事業の新規事業や先駆的な事業を企画・実施したり、民間団体の助成事業を積極的に活用していますか。 | | |
| ③ボランティア団体への独自の助成金制度がありますか。 | | |

ステップ3：課題抽出と目標再設定



<解説>
 右半分(1~7)は社協VCとして押さえていただきたい項目です。
 左半分はあなたの社協VCのどの部分が強いかを表しています。
 ・8が高いところは豊富な人材力(マンパワー)に恵まれていると言えます。
 ・9が高いところは自主的な住民活動が盛んといえます。
 ・10が高いところは充実した設備を備えていると言えます。
 ・11が高いところは資金調達面でのアイデアが優れていると言えます。

*** 自己点検からあなたの社協VCの強みと弱みを分析してみましょう。**

| 強み | |
|----|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| 弱み | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

*** もう一度目標を振り返ってみましょう。**

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

①の目標に対する課題を①、②の目標課題であれば②に記入していきます。

*** 目標を達成するにあたって課題と思われることは何でしょうか？**

担当として取り組む時はここが大切ですので、よく考えましょう。

・上の目標ごとに考えて記入してください

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

目標が抽象的すぎると、後の作業が難しくなります。具体的にに取り組むことがイメージできる目標がよく考えてみましょう。

*** 現れた課題から目標達成が困難な場合は修正する必要があります。**

* 目標修正は組織で取り組む場合に考えて下さい。

修正が必要なものは下記の目標(再掲)を修正してください。

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

ステップ4：振り返り（アクションプランに取り組む前に）

目標（見直した場合はその目標）

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

目標を達成するにあたっての課題

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

あなたの社協VCの強み

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

あなたの社協VCの弱み

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

* 目標を達成するにあたり必要と思われる連携相手を「強み」と「弱み」を振り返りながら考えてみましょう。

協働・連携が必要な相手

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

NPOと連携・協働が必要と考えている場合は、NPO法の17分野のうちどの活動分野（P11参照）を記入してください。

<参考> 現在の連携状況

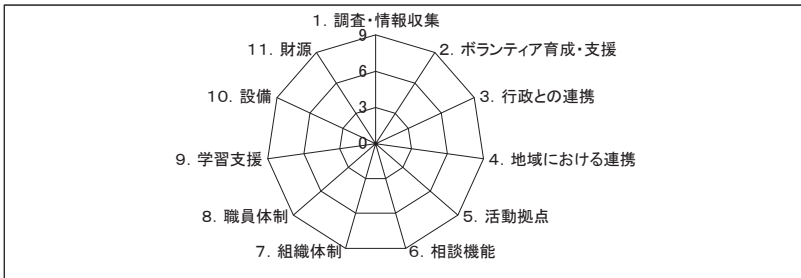
| | |
|-----------------------------|--|
| (1) 密に連携をとっているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (2) 定期的な会議等で情報交換などがとれているところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| (3) 現在連携はとれていないが必要と思われるところ | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

* 目標や連携相手先を見直したうえで、改めて考えてみましょう

| | |
|-------------------------|--|
| 社協VCが最も大切にしなければならない人たちは | |
| 顧客は | |
| 地域のニーズは押さえていますか？ | |
| ニーズは | |

ステップ5: 短期目標(アクションプラン)の作成

1. 自己点検結果



| 強み | |
|----|--|
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| 弱み | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

| 連携が必要なところ | 連携がとれているところ |
|-----------|-------------|
| ① | ① |
| ② | ② |
| ③ | ③ |

ステップ3で見直した目標が反映されています。これから作成していただく「短期目標」と区別するために、ここからは「中長期目標」という表現にしています。

2. 短期目標(アクションプラン)の作成

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標① | |
| 課題 | |
| | 目標①に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標② | |
| 課題 | |
| | 目標②に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標③ | |
| 課題 | |
| | 目標③に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標④ | |
| 課題 | |
| | 目標④に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

| | |
|--------|-----------------------|
| 中長期目標⑤ | |
| 課題 | |
| | 目標⑤に対して取り組むべきこと(短期目標) |
| (1) | |
| | (1)の具体計画 |
| (2) | |
| | (2)の具体計画 |
| (3) | |
| | (3)の具体計画 |

現在の目標の達成度を確認される場合はピンク色見出しのシート「1目標と到達度」に取り組んでください。

具体計画には、数値的達成目標、年間スケジュールなどを考えて記入してください。

【例】
 ①ニーズ調査: 当事者ヒアリングの実施・5月
 ②要約筆記V養成講座の実施: 定員20名・9月開催
 ③社協VCだよりの発行: 年4回(5月・8月・11月・2月)
 ④次年度版Vハンドブック等の作成: 1月作成・3月発行
 ⑤〇〇委員会の開催: 年3回(6月・9月・1月)

ステップ6: 短期目標の点検・評価

〈点検時期: H 年 月 日〉

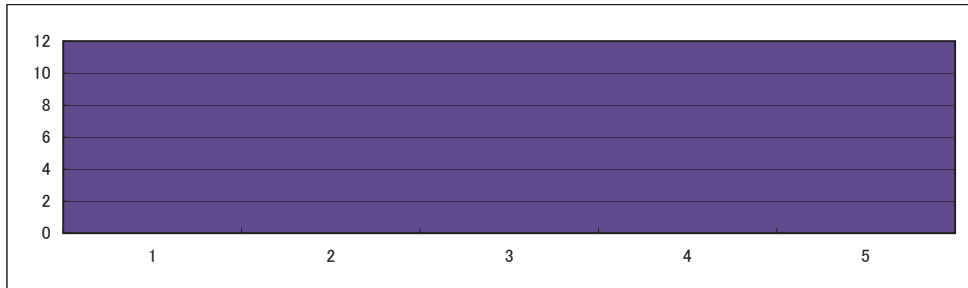
* 入力欄に「達成=4」「おおむね達成=3」「半分は達成=2」「少しは進んだ=1」「全く進んでいない=0」を入力してください

入力欄に1~5の数字を入力していきますと、下のグラフ、達成率が自動で完成します。

| | 項 目 | 入力欄 |
|--------|-----------------------|-----|
| 中長期目標① | | |
| 課題 | 目標①に対して取り組むべきこと(短期目標) | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標② | | |
| 課題 | 目標②に対して取り組むべきこと(短期目標) | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標③ | | |
| 課題 | 目標③に対して取り組むべきこと(短期目標) | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標④ | | |
| 課題 | 目標④に対して取り組むべきこと(短期目標) | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |
| 中長期目標⑤ | | |
| 課題 | 目標⑤に対して取り組むべきこと(短期目標) | |
| (1) | | |
| | (1)の具体計画 | |
| (2) | | |
| | (2)の具体計画 | |
| (3) | | |
| | (3)の具体計画 | |

短期目標の達成度

* 上のチェック欄を入力するとグラフが完成します。各中長期目標に対する短期目標が全て達成すると12点満点ですので、10点(達成率80%)くらいになるよう目指しましょう(達成できなくてもまた、ステップ6に戻って取り組んでいくことがPDCAサイクルです)。



| | |
|------------|-----|
| 中長期目標①の達成率 | 0 % |
| 中長期目標②の達成率 | 0 % |
| 中長期目標③の達成率 | 0 % |
| 中長期目標④の達成率 | 0 % |
| 中長期目標⑤の達成率 | 0 % |

評価(改善すべき点は)

| | |
|---|--|
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |
| ■ | |

現在の目標到達度の使い方について

- ①自己点検シートではステップ5で短期目標を設定し、時期をおいてステップ6で点検するシステムになっていますが、現在の到達度がどのくらいかをチェックするためのシートです。
- ②自己点検シートのステップ5まで取り組めば、あとは「2取組状況」に数字を入力するだけです。
- ③このエクセルファイルをコピーして使うことをお勧めします(関数処理していますので、表を変えた場合連動しなくなることがあります)。
- ④行の高さを変えるのは構いませんが、行の増減はしないでください。
- ⑤「集計」には入力しないでください(シートには保護をかけています)。
- ⑥各シートに説明事項として吹き出し(緑色)がありますが、プリントの際は印刷されません。

1：現在の目標と到達度

① 地域福祉推進計画

| | |
|-----|--|
| 目標① | |
| 目標② | |
| 目標③ | |
| 目標④ | |
| 目標⑤ | |

② ボランティア・市民活動センターの目標

| | |
|-----|--|
| 目標① | |
| 目標② | |
| 目標③ | |
| 目標④ | |
| 目標⑤ | |

③ ①と②をふまえた社協VCの目標

| | |
|-----|--|
| 目標① | |
| 目標② | |
| 目標③ | |
| 目標④ | |
| 目標⑤ | |

④ 目標の到達度

| | | |
|-----|---------|---|
| | ＜目標達成率＞ | |
| | 目標① | % |
| | 目標② | % |
| | 目標③ | % |
| | 目標④ | % |
| 目標⑤ | % | |

* 記入不要
1～3を入力したら、次のシート「取組状況」にチェックリストが完成します。そのチェックリストをつけていけば、到達度が自動的にグラフになって表れます。

2:目標に対する取り組み状況

*目標に対して取り組んでいること

* []に「取り組んでいる=5」「ほぼ取り組んでいる=4」「半分程度=3」「少しは取り組んでいる=2」「やや取り組んでいる=1」「取り組めていない=0」を入力してください。

| 目標① | | 入力欄 |
|-----|-----------------|-----|
| | 目標①に対して取り組むべきこと | |
| (1) | | |
| (2) | | |
| (3) | | |

| 目標② | | 入力欄 |
|-----|-----------------|-----|
| | 目標②に対して取り組むべきこと | |
| (1) | | |
| (2) | | |
| (3) | | |

| 目標③ | | 入力欄 |
|-----|-----------------|-----|
| | 目標③に対して取り組むべきこと | |
| (1) | | |
| (2) | | |
| (3) | | |

| 目標④ | | 入力欄 |
|-----|-----------------|-----|
| | 目標④に対して取り組むべきこと | |
| (1) | | |
| (2) | | |
| (3) | | |

| 目標⑤ | | 入力欄 |
|-----|-----------------|-----|
| | 目標⑤に対して取り組むべきこと | |
| (1) | | |
| (2) | | |
| (3) | | |

自己点検シート5で設定した短期目標が、反映されませんが、現在の目標設定と違う場合は入力しなおしてください。

事例 ・ コラム検索

第1章

| 事例番号 | キーワード | 事例テーマ | 社協名 | 頁 |
|------|-----------------|---|------|----|
| 1 | 介護保険事業等との連携 | 地域の福祉資源としての施設のあり方を目指し… ～福祉施設ボランティアコーディネート指針づくり を通じた身近なCWの増強と充実～ | 三木市 | 8 |
| コラム① | 住民への社協VCのPRについて | | 豊岡市 | 9 |
| 2 | 社協を知ってもらうための工夫 | 社協をPRするための工夫もアイデア次第 ～地元高校生が社協紹介DVDを作成～ | 洲本市 | 10 |
| コラム② | NPOとの協働について | | 芦屋市 | 15 |
| 3 | 市民活動センターとの連携 | 社協VCと市民団体連絡協議会の連携と役割分担 | 加古川市 | 16 |
| 4 | 地区VCを考える | 住民による地区VC研究会 | 宝塚市 | 18 |

第2章

| 事例番号 | キーワード | 事例テーマ | 社協名 | 頁 |
|--------|-------------------------|------------------------------|-----|----|
| 5 | 地域の課題とニーズ把握 | 地域の様々な課題やニーズを把握して地域福祉推進計画を策定 | 養父市 | 25 |
| 6 | 合併とV連絡体 | 市町合併に伴うV連絡会のあり方について | 多可町 | 27 |
| ワンポイント | 1. 足を運ぶことが成果につながる | | | 30 |
| | 2. 地域福祉担当との連携 | | | |
| | 3. 活動団体も変化していく | | | |
| | 4. ボランティアリーダーの育成 | | | 31 |
| | 5. ボランティア連絡体の役員になること | | | |
| | 6. 市町域を越えたボランティア活動者との交流 | | | |
| | 7. セルフヘルプグループ | | | |
| 7 | 看板の工夫 | 地域にVCがあることをわかりやすくするための取組み | 上郡町 | 32 |
| コラム③ | ボランティア連絡体との関係について | | 丹波市 | 32 |
| 最後に | 阪神淡路大震災から15年 | 震災時に現地入りしたボランティア | | 42 |

ボランティア・市民活動センター

機能強化指標検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 地域においてボランティア活動支援の中核的役割を担う各市町社協ボランティア・市民活動センターが、新たな活動者層（若者、企業人、団塊世代等）を開拓したり、NPO、企業・労組、学校、行政等をつなぐネットワークづくりを図るなど、支援機関としての機能の強化に向けた指標づくりを行うため、ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(検討内容)

第2条 委員会は、次の事項を協議する。

- (1) ボランティア・市民活動センターの現況調査と分析に関すること
- (2) 個別訪問・ヒアリング等の方策に関すること
- (3) 発展・強化プラン作成ガイドの制作に関すること
- (4) 普及事業に向けての実施計画に関すること
- (5) その他、前号に関連する事項に関すること

(委員会の構成)

第3条 委員会は、7名程度の委員をもって組織する。

2 委員は、市町社協ボランティア・市民活動センターや学識経験者等から選任し、兵庫県社会福祉協議会会長が委嘱する。

3 委員会に、委員長を1名置く。

- (1) 委員長は、委員の互選により決定する。
- (2) 委員長は、委員会を代表し議事進行を司る。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。

2 欠員により補充された委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

(庶務)

第6条 この委員会の事務は、兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザにおいて処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

(附則)

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会

検討経過

| 回・日にち | 検討内容 |
|------------------------|---|
| 第1回委員会 平成20年9月4日 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員長の選出について ・指標検討委員会の進め方について ・市町社協ボランティア・市民活動センターの現況について ・市町社協VCのアンケート調査の実施について ・フリートーク |
| 第2回委員会 平成20年12月5日 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回委員会の論点整理について ・市町社協VCの使命と役割（あるべき姿）について ・市町社協VCアンケート調査結果の分析について ・フリートーク |
| 第1回ワーキング 平成21年1月8日 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回の論点整理について |
| 第2回ワーキング 平成21年3月13日 | <ul style="list-style-type: none"> ・指標骨子（案）の作成について ・自己点検チェックリストの形式と項目について |
| 第3回委員会 平成21年3月25日 | <ul style="list-style-type: none"> ・指標の構成について ・指標の使い方について ・指標骨子に基づいた項目ごとの討議について ・フリートーク |
| 第3回ワーキング 平成21年6月29日 | <ul style="list-style-type: none"> ・指標「試作版」（案）の作成について |
| 第4回委員会 平成21年8月3日 | <ul style="list-style-type: none"> ・指標「試作版」の作成について ・指標に盛り込む社協VCの活動ヒント事例のポイントについて ・指標「試作版」のモニタリング市町の選出について ・フリートーク |
| 平成21年9月～11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・事例取材 ・モニタリング協力市町社協VCへの依頼と現地ヒアリング |
| 第5回委員会 平成21年12月14日 | <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング意見報告について ・指標の完成に向けての最終討議について |

ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会

委員・事務局名簿

平成20年4月1日～平成22年3月31日

| | 名 前 | 所 属 |
|-----|-------|---------------------------------|
| 委員長 | 成田 直志 | 関西国際大学 教育学部教育福祉学科 教授 |
| 委 員 | 川中 大輔 | シチズンシップ共育企画 代表 |
| | 城田 知志 | 洲本市社会福祉協議会 地域福祉係長（兼）福祉活動専門員 |
| | 宮平 太 | 芦屋市社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター |
| | 深山 剛大 | 豊岡市社会福祉協議会 中央センター主任（福祉活動専門員） |
| | 田邊 和彦 | 丹波市社会福祉協議会 地域福祉係長（ボランティアセンター所長） |
| | 渡邊 越子 | 姫路市社会福祉協議会 主任 |
| 事務局 | 是川 哲秀 | ひょうごボランティアプラザ 事務局長(H21.4～) |
| | 山下 英之 | ひょうごボランティアプラザ 事務局長(～H21.3) |
| | 福島 真司 | ひょうごボランティアプラザ 交流支援部長(～H21.6) |
| | 秋澤 辰弥 | ひょうごボランティアプラザ 交流支援部副部長 |
| | 松井 寛泰 | ひょうごボランティアプラザ 交流支援部主事(H21.4～) |
| | 荻田 藍子 | ひょうごボランティアプラザ 交流支援部主任(～H21.3) |
| | 村田 明子 | 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部主任(～H21.12) |

試作版モニター協力市町社協

| |
|--------------------------|
| 伊丹市社会福祉協議会 |
| 相生市社会福祉協議会 |
| 三木市社会福祉協議会 ボランティア活動プラザみき |
| 猪名川町社会福祉協議会 |
| 新温泉町社会福祉協議会 |

※この他にも事例提供などで多くの市町社協、関係機関のご協力をいただき、ありがとうございました。

『一歩前進！』

社協 VC のための自己点検ガイドブック
市町社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター機能強化指標

2010年（平成22年）3月発行

発行：兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランタリープラザ
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3
神戸クリスタルタワー6階
TEL：078-360-8845
FAX：078-360-8848
URL：<http://www.hyogo-vplaza.jp>